

# TÖYÖTÖMI

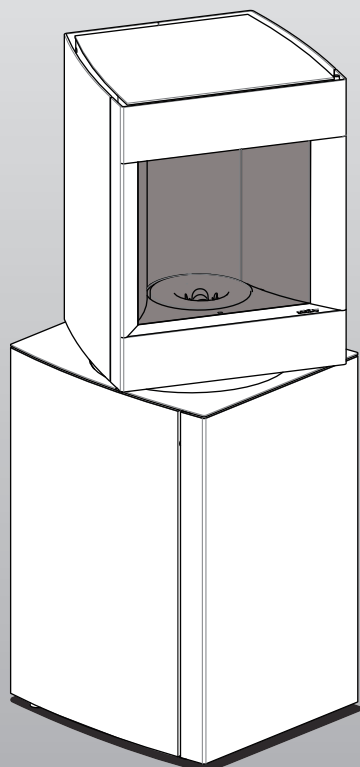
木質バイオマス燃料 ペレットストーブ  
ストップ  
ピー  
**Stuv P-10**

## 工事説明書

このたびは本機をお買い求めいただきまして  
まことにありがとうございます。

■ 設置工事の前に、この工事説明書をよく  
お読みのうえ正しく据付けてください。  
なお、この工事説明書は、工事終了後に  
取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡し  
ください。

■ 地域によっては、条例により設置できない  
場合もあります。弊社までご相談ください。



- 使用する工事部品は必ず当社の純正別売品を使用してください。
- 本機にはヘックスローブ穴付きネジを使用しています。工事の際はヘックスローブドライバー(T25)を用意してください。



### 目次

1	安全のために必ずお守りください	1~5
2	寸法図	6
3	各部のなまえ(部品図)	7
4	配管部材の準備	8
5	開こん	8~11
	・開こんする前に	8
	・開こんのしかた	8~10
	・附属品の確認	11
6	ストーブの運びかた	12~13
	・開こん後、ストーブを運ぶ	12~13
7	据付け	14~15
	・据付け場所の選定	14
	・ストーブと可燃物との離隔距離の 規定について	14~15
	・据付け方法	15
8	排気管および排気トップと給気管の取り付け	16~30
	・排気管および排気トップの設置方法	16
	・排気管の直径	16
	・給気管の取り出し場所	16
	・排気トップの位置	17
	・排気管の横引き・立ち上がりの寸法	18
	・排気管内の結露水凍結防止について	18
	・排気管・給気管の取り付け図と配管図	19~22
	・壁貫通部の工事方法と配管	23~28
	・給気管の取り付け	29~30
9	本体の組み立て	31~33
	・燃焼室の組み立て	31~32
	・本体の組み立て	33
10	感震タツプ(安全装置)の取り付け	34
11	試運転	34~裏表紙
	・運転の準備	35
	・リモコンのペアリング(初めに必ず行う)	36
	・排気圧センサーの検出確認(初め必ず行う)	37~39
	・ペレット燃料を入れる	40
	・灰落とし装置の動作確認	41
	・点火して試運転をする	42
	・緊急消火のしかた	裏表紙
12	廃棄するときの注意	裏表紙




# 1 安全のために必ずお守りください

●人への危害と財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。


●ここに示した表示は、誤った作業をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。





 <b>警告(WARNING)</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が、死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意(CAUTION)</b>	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が、軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

 「禁止」されている内容です。	 「注意」していただく内容です。	 必ずしていただく「指示」内容です。
--	---	---

●説明文中の「お願い」「お知らせ」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

 **警告(WARNING)**

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>★据付け・移設は、販売店または据付け業者がおこなってください。</b> </div> <p>お客様ご自身で据付けや移設をされ、不備があると感電や火災の原因になります。</p>	<div style="text-align: center;">  <b>指示</b> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>★据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守っておこなってください。</b> </div> <p style="text-align: center;">  <b>指示</b> </p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>★屋内排気禁止</b> </div> <p>屋内に排気すると排ガスが室内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<div style="text-align: center;">  <b>禁止</b> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>★排気管を確実に接続</b> </div> <p>排気管を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃などで外れたりすると燃焼中に排ガスが室内に漏れて危険です。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <b>指示</b> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>★荷重に耐えられない場所に設置しない</b> </div> <p>床面が弱いとストーブが傾き、排気管はずれの原因になります。排気管がはずれると室内に排ガスが漏れて危険です。</p>	<div style="text-align: center;">  <b>禁止</b> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>★排気用トップ・給気口トップは閉そくしない場所に設置</b> </div> <p>積雪の多いときに排気用トップと給気用トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は排気・給気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが漏れて危険です。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <b>指示</b> </div>

# ⚠ 注意 (CAUTION)

## ★次の場所には据付けない

火災や予想しない事故の原因になります。

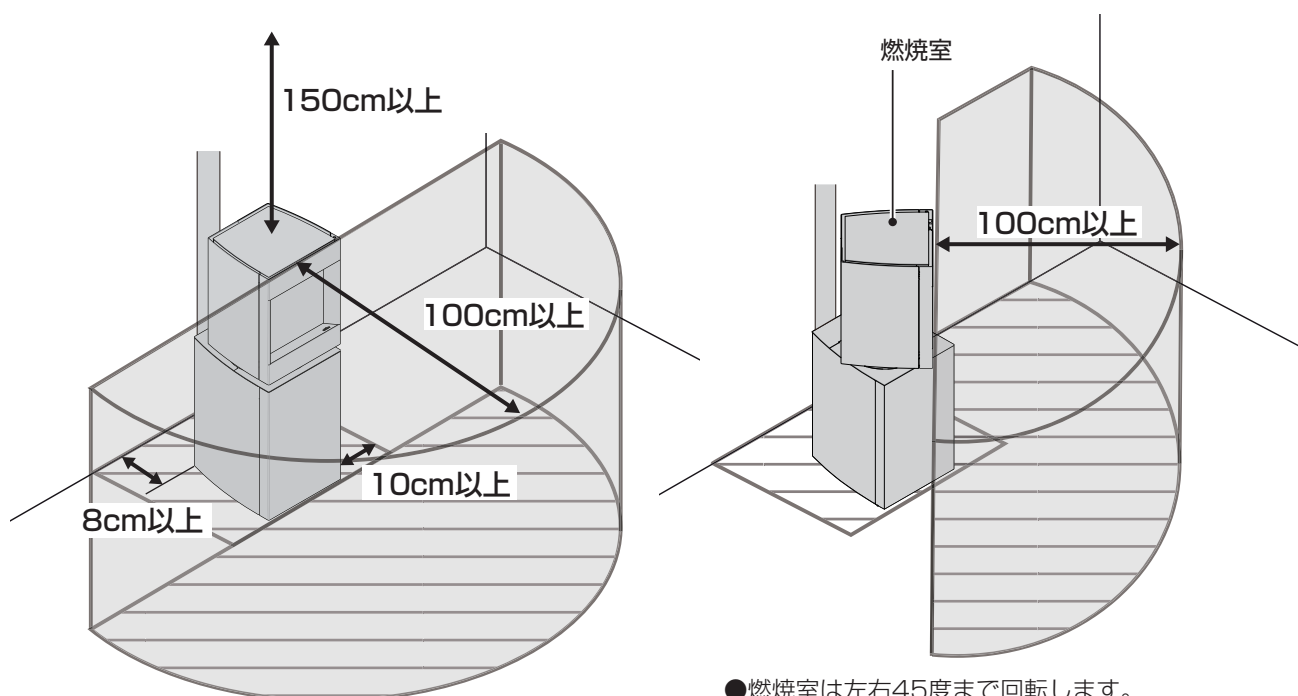
- 水平でない場所、不安定な場所。
- 不安定な物をのせた棚などの下。
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所。
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所、または換気のおこなえない場所。(強制排気形設置時)
- 付近に燃えやすいものがある場所。
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。
- マントルピース内など。
- 温室、飼育室、乾燥室など人のいない場所。
- 塵やほこりの多い場所。
- 小さなお子供が触れるような場所、通路、人通りの激しい場所はさける。



※高地（標高800m以上）では酸素濃度が薄いため異常燃焼を起こすおそれがあります。  
標高800m以上で使用する場合は販売店または弊社までお問い合わせください。

## ★可燃物との距離を離す

- ストープから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。  
(メーカー離隔距離)
- 当該距離による設置適用に関しては、消防署判断となるため設置場所を管轄する消防署の確認が必要です。(詳細については15ページを参照してください。)



- 燃焼室は左右45度まで回転します。  
45度回転したときの可燃物との離隔距離も考慮してください。

# 1 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 注意 (CAUTION)

### ★可燃物との距離を離す(つづき)

#### ■落下物に注意

ストーブの上に物が落下しない  
場所で使用してください。  
落下物により火災が起きるおそれ  
があります。



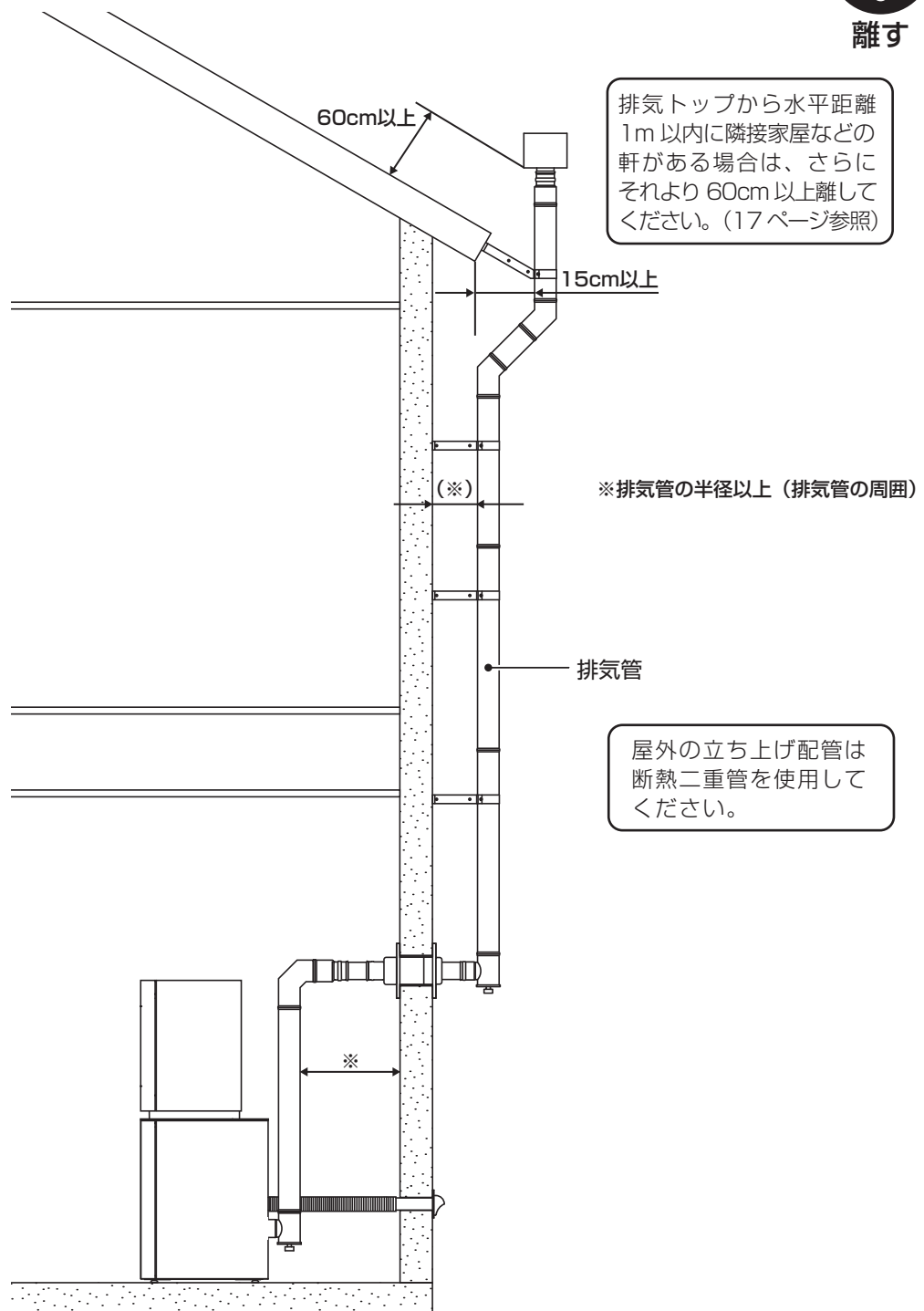
#### ■家具などから離す

家具等からは十分な距離を離し  
てください。  
熱で変形や変色、自然発火する  
ことがあります。



#### ■排気トップ・排気管から周囲の可燃物との離隔距離は、図のようにしてください。

#### 屋根上に排気トップを設置 (推奨)



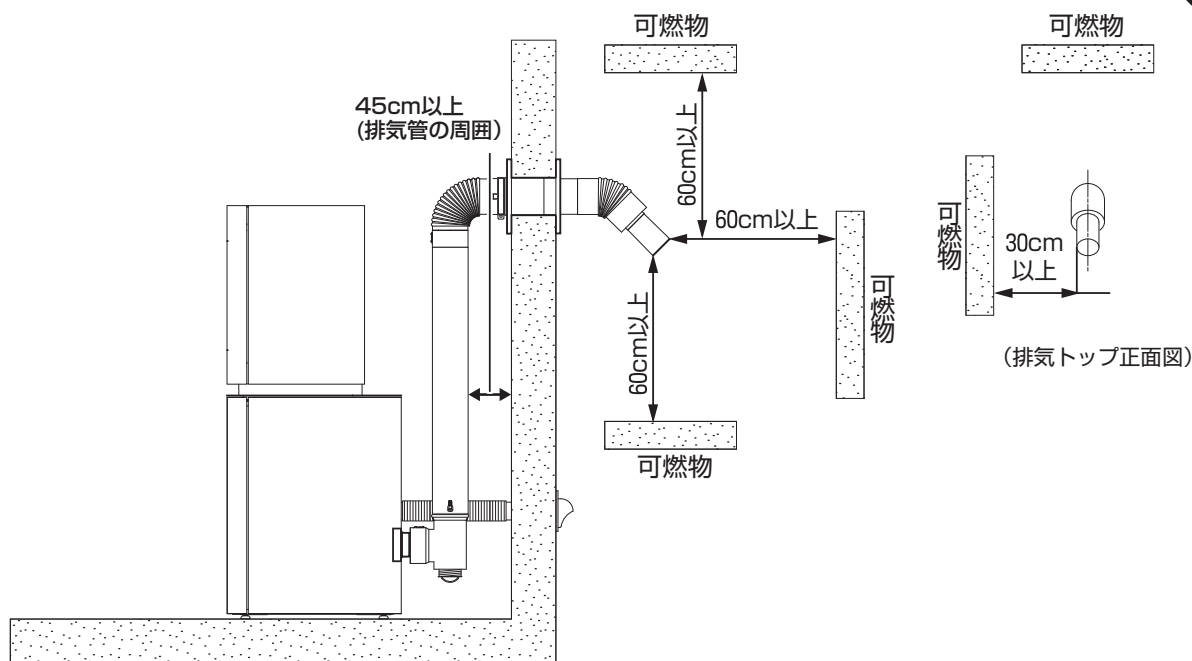


# ⚠ 注意 (CAUTION)

## ★可燃物との距離を離す(つづき)

■排気トップ・排気管から周囲の可燃物との離隔距離は、図のようにしてください。

1~2m立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合)



## ★屋外の立ち上げ配管は断熱二重管を使用する

屋根上に排気トップを設置する場合

- 屋外の立ち上げ配管は断熱二重管を使用してください。
- 排気温度が低下すると、ドラフト力(上昇気流)が弱くなり、排気管つまりの原因になります。

## ★排気管の固定

屋根上に排気トップを設置する場合

- 排気管は、風や振動などで倒れないように、支え金具や支え線などで固定してください。
- 排気管は、1m~2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は、支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。

1~2m立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合)

- 屋外で立ち上げる場合は、風や振動などで倒れないように、壁固定金具で固定してください。

## ★開こんや持ち運びは2人以上でおこなう

- ストーブを1人で持ち上げないでください。(ストーブの重量:約175kg) 持ち上げる際に体を痛めるおそれがあります。
- 木枠を解体するときは、1人が木枠が倒れないように支えながらもう1人が木ネジを取り外してください。木枠が倒れてけがをするおそれがあります。

## ★重量に耐えられる運搬車(リフトなど)を使用する

- 運搬車(リフトなど)の制限重量を守ってください。(ストーブの重量:約175kg) 制限重量を超えた状態で、ストーブを運ぶと運搬車(リフトなど)が倒れたり、壊れるおそれがあります。

# 1 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 注意 (CAUTION)

### ★排気管および排気トップの点検

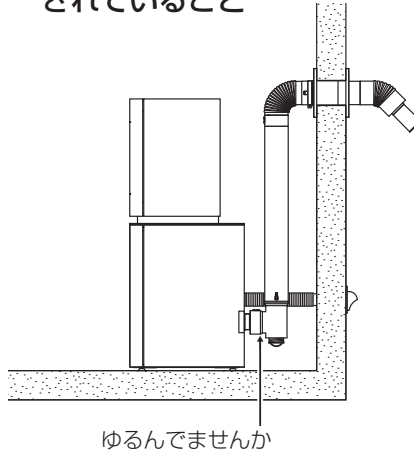
据付けが終わったら、もう一度点検してください。  
次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。



#### ■可燃物近接禁止

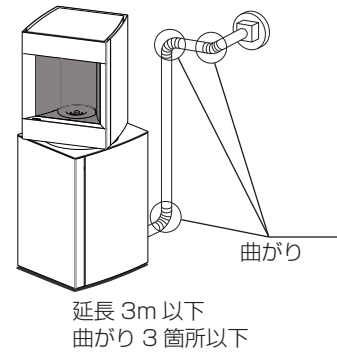


#### ■接続部は正しく接続されていること

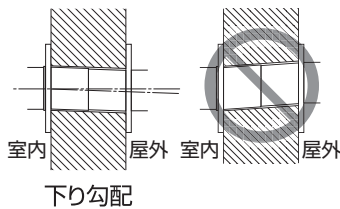


#### ■3m3曲がり以下のこと

1~2m立ち上げて排気トップを設置  
(風圧帯内へ設置する場合)

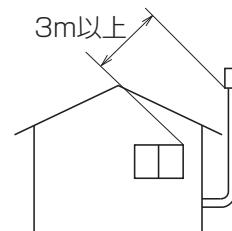


#### ■壁貫通部の排気管は下り勾配のこと

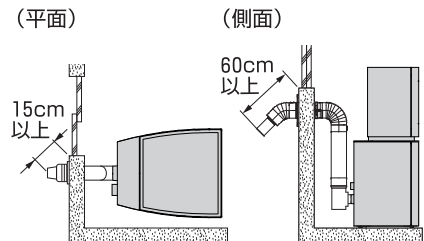


#### ■トップと建物の開口部（窓など）との距離が離れていること

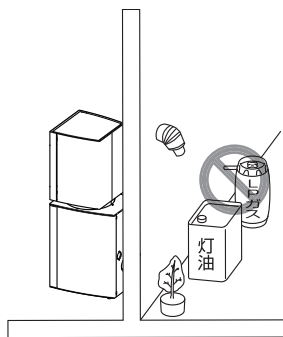
屋根上に排気トップを設置



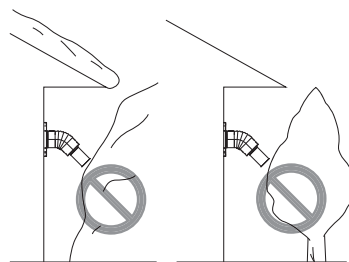
1~2m立ち上げて排気トップを設置  
(風圧帯内へ設置する場合)



#### ■排気トップ付近の危険物近接禁止

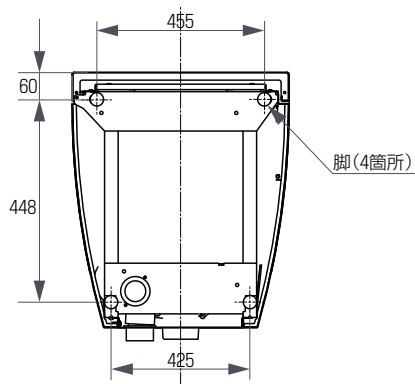
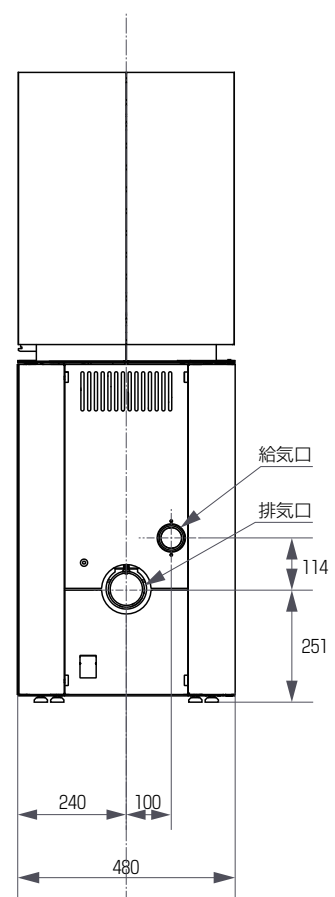
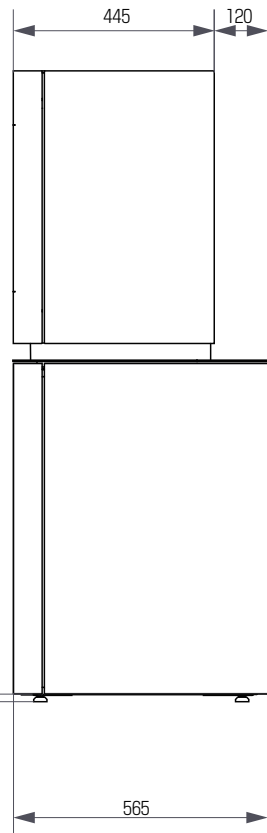
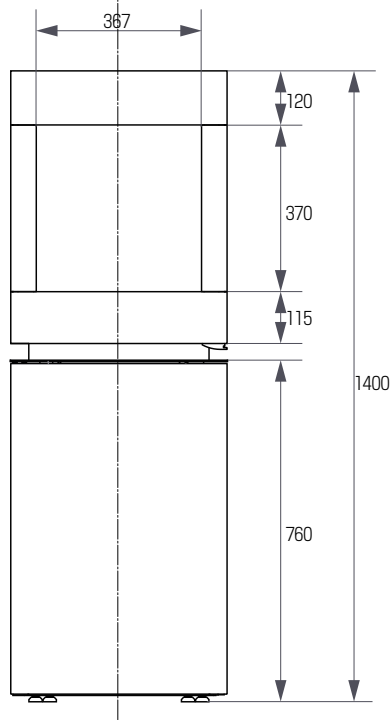
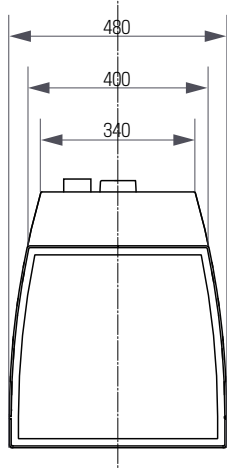


#### ■トップ先端の障害物禁止

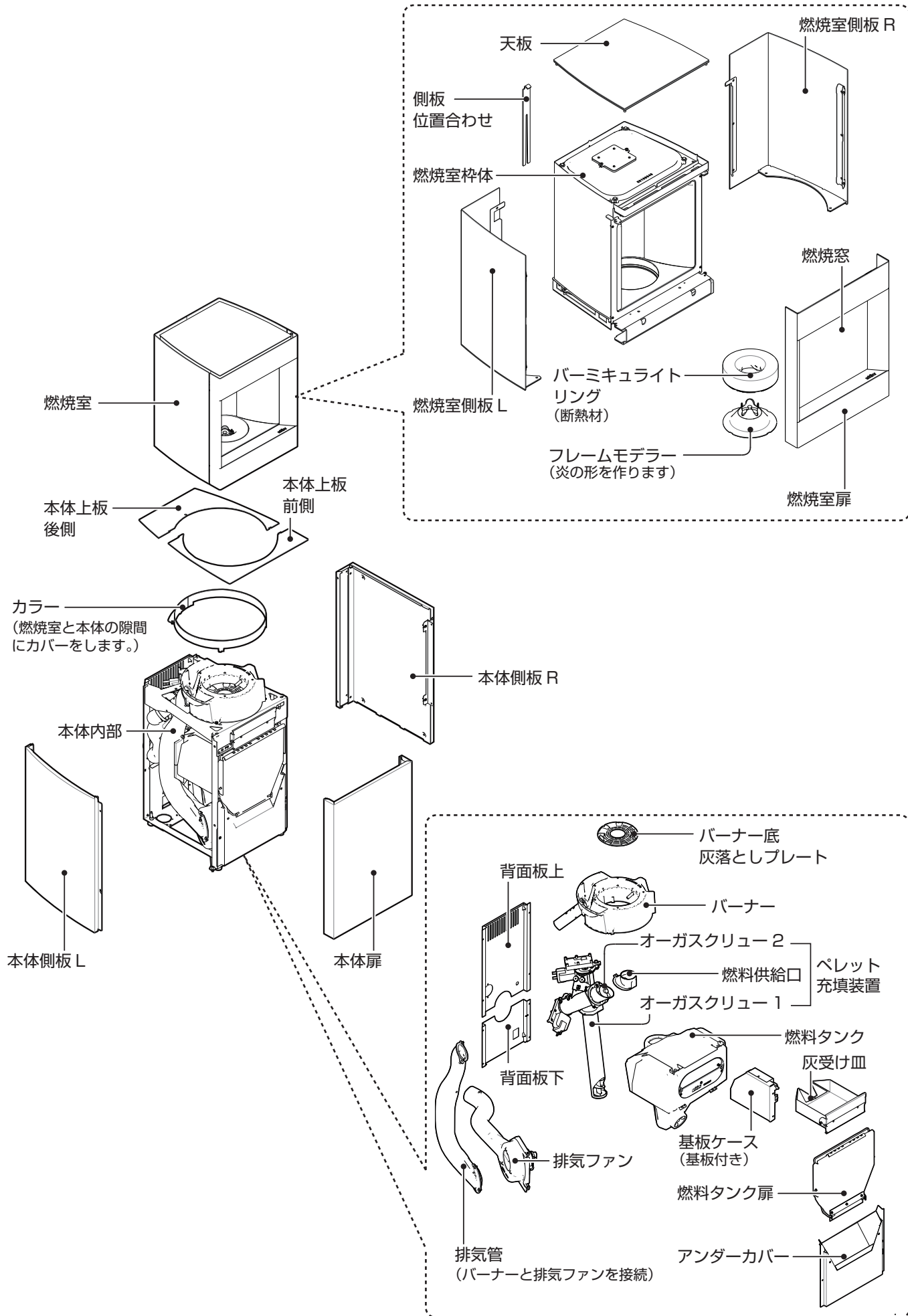


# 2 寸法図

単位 : mm



### 3 各部のなまえ(部品図)



## 4 配管部材の準備

排気管・給気管の施工方法（16～22ページ）に従って、必要な配管部材を用意してください。  
使用する配管部材は、必ず当社の純正品別売を使用してください。

## 5 開こん



**注意**

### ★開こんや持ち運びは2人以上でおこなう

- ストーブを1人で持ち上げないでください。(ストーブの重量:約175kg)  
持ち上げる際に体を痛めるおそれがあります。
- 木枠を解体するときは、1人が木枠が倒れないように支えながらもう1人が木ネジを取り外してください。  
木枠が倒れてけがをするおそれがあります。



**指示**

### 開こんする前に

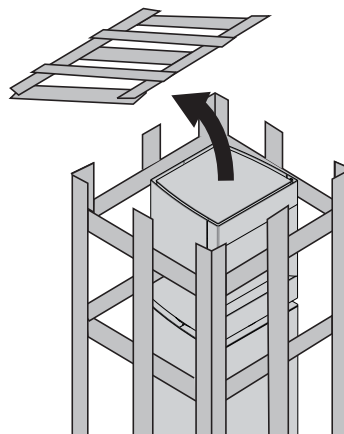
- 木枠を解体する前に、本機の輸送中に生じたガラスの破損などの異常がないか調べてください。
- 本機にはヘックスローブ穴付きネジを使用しているため、ヘックスローブドライバー（T25）を用意してください。

### 開こんのしかた

#### ■木枠を解体する

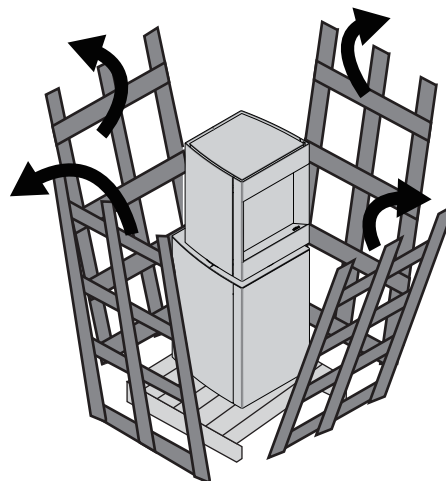
##### 1 木枠の上部を取り外す。

- 木枠上部の木ネジを取り外してください。



##### 2 木枠の側部を取り外す。

- 必ず2人以上で取り外しをおこなってください。  
1人が木枠が倒れないように支えながら、もう1人が木ネジを取り外してください。



## 5 開こん

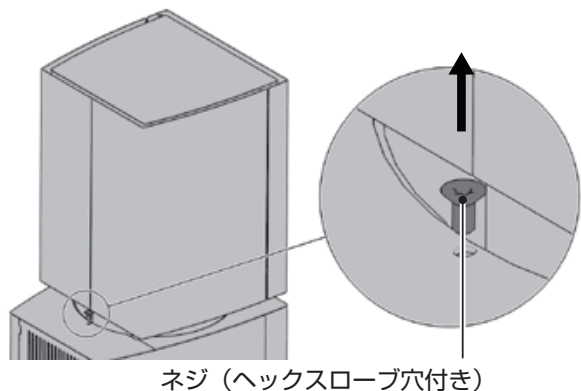
### 開こんのしかた (つづき)

#### ■ストーブを木製パレットから取り外す

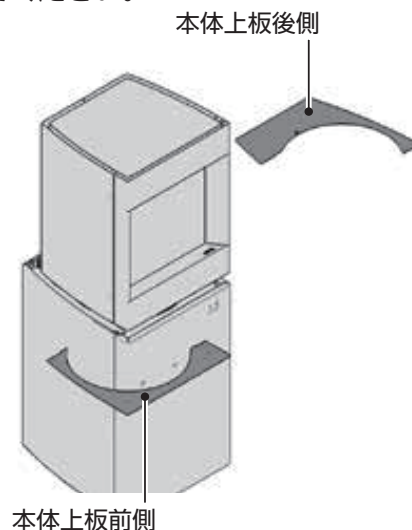
- 本体内部で木製パレットにストーブが固定されています。  
本体を開けて、ストーブを固定している木ネジを取り外します。

#### 1 本体上板前側と後側を取り外す。

- ① 本体上板後側を固定しているネジを取り外してください。

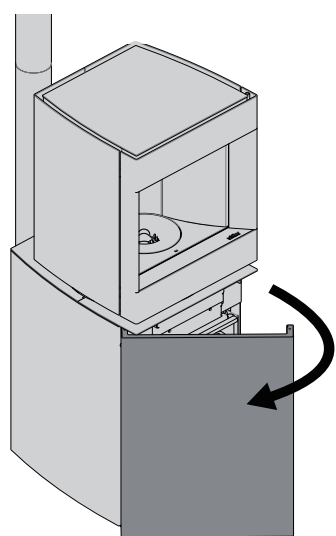


- ② 本体上板後側を取り外してから、本体上板前側を取り外してください。

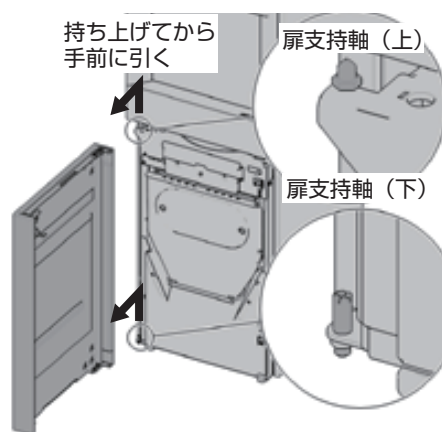


#### 2 本体扉を取り外す。

- ① 本体扉を開けてください。



- ② 本体扉を持ち上げて、扉支持軸から取り外してください。

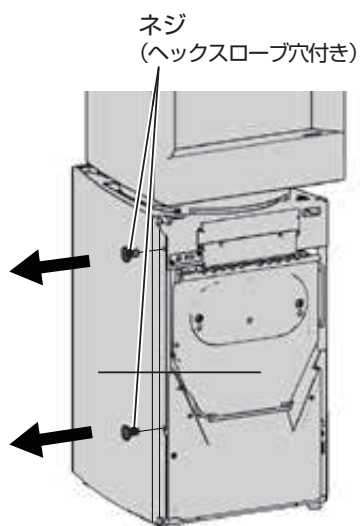




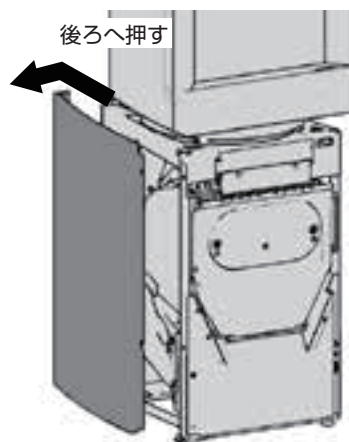
## 開こんのしかた (つづき)

### 3 本体側板 R と L を取り外す。

①本体側板 L の固定ネジ 2 本を取り外してください。



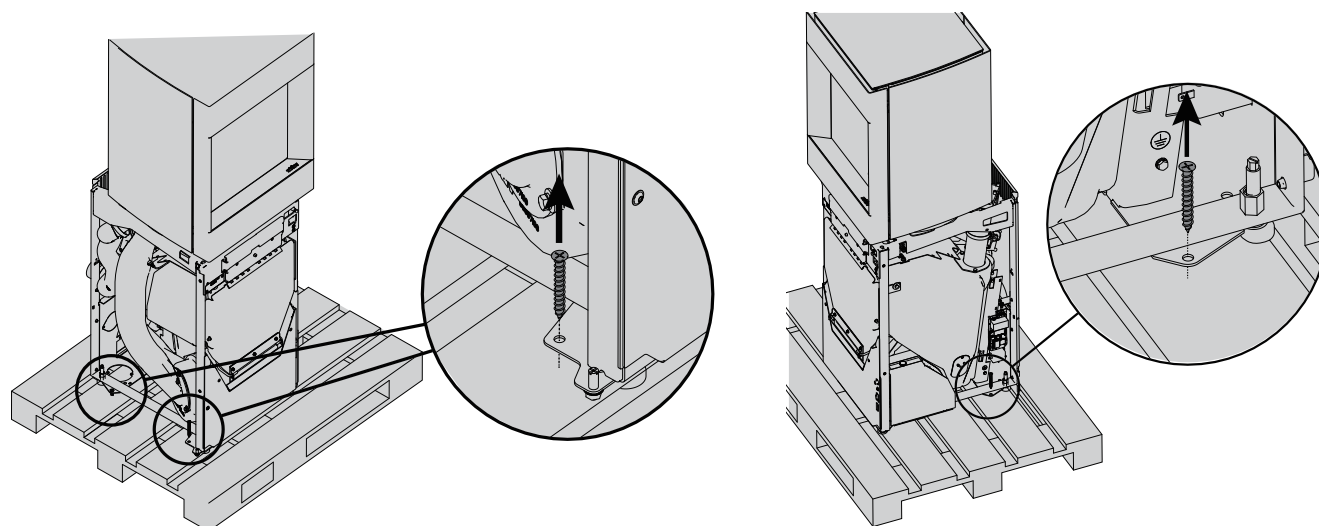
②本体側板 L を取り外してください。



③本体側板 R も同じように取り外してください。

### 4 ストープを木製パレットから取り外す

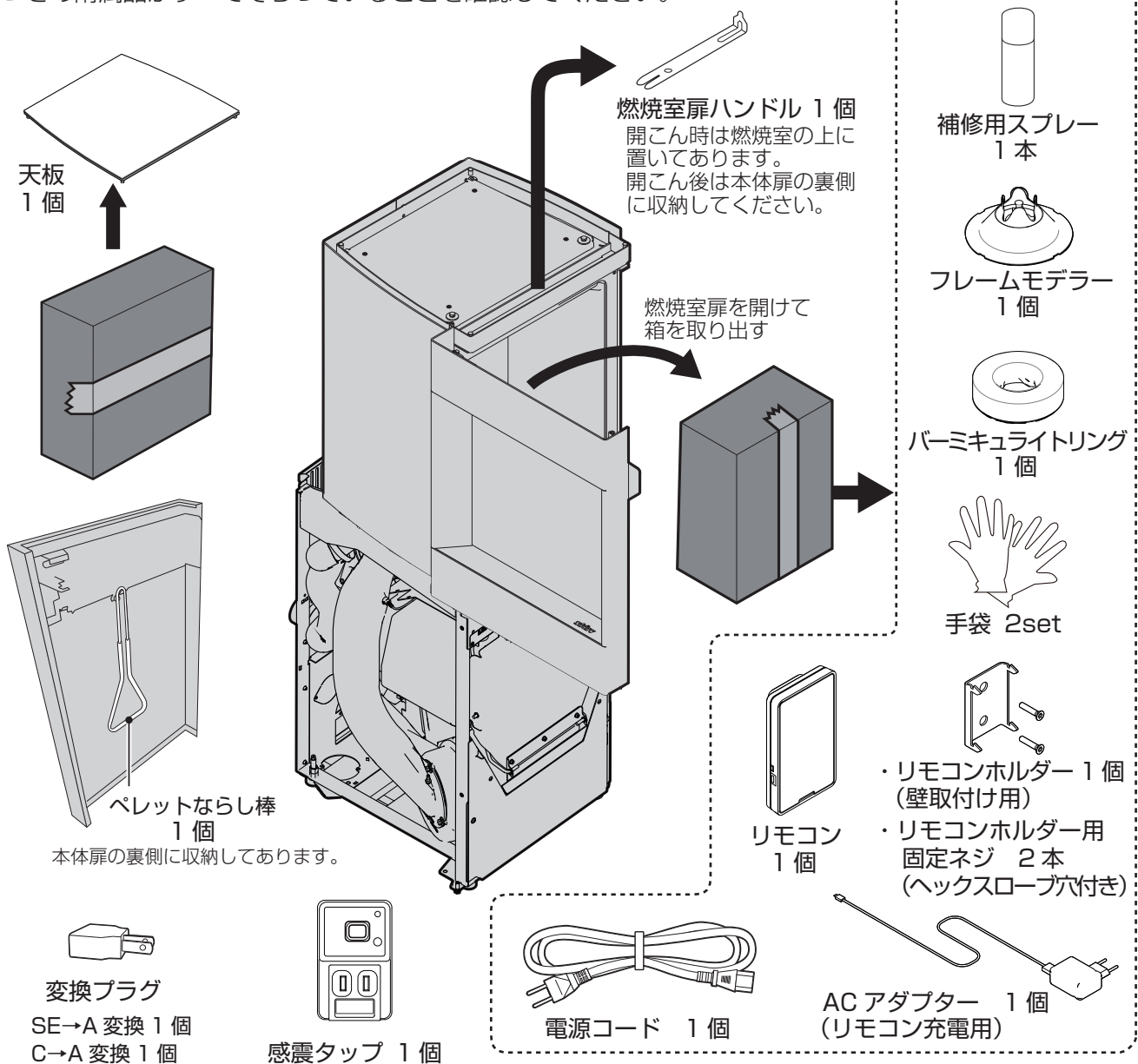
●ストープを固定している木ネジを 3 箇所、取り外してください。



## 5 開こん

### 附属品の確認

●つぎの附属品がすべてそろっていることを確認してください。

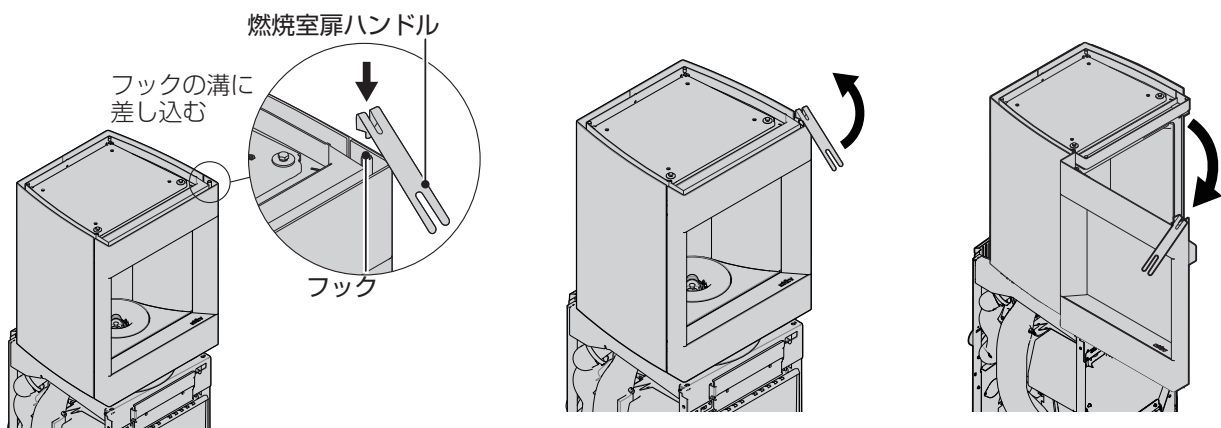


#### 燃烧室扉の開けかた

① 燃烧室扉ハンドルをフックに差し込んでください。

② 燃烧室扉ハンドルを右回りに回してください。

③ 燃烧室扉を開けてください。



## 6 ストープの運びかた

### 注意

#### ★開こんや持ち運びは2人以上でおこなう

- ストープを1人で持ち上げないでください。(ストープの重量:約175kg)  
持ち上げる際に体を痛めるおそれがあります。
- 木枠を解体するときは、1人が木枠が倒れないように支えながらもう1人が木ネジを取り外してください。  
木枠が倒れてけがをするおそれがあります。



#### ★重量に耐えられる運搬車(リフトなど)を使用する

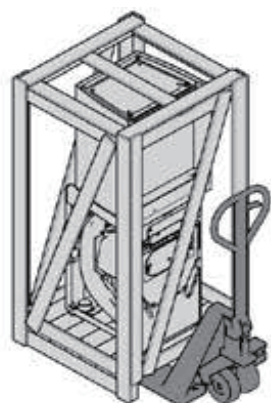
- 運搬車(リフトなど)の制限重量を守ってください。  
制限重量を超えた状態で、ストープを運ぶと運搬車(リフトなど)が倒れたり壊れるおそれがあります。(ストープの重量:約175kg)



使用する前は本体の塗装の焼き付きが充分でないため、キズがつきやすくなっています。  
(燃焼をすることで塗装が焼き付き、表面が硬くなりキズがつきにくくなります。)  
設置工事の際にストープを運ぶときは、本体にキズがつかないように注意が必要です。

#### 運搬車(リフトなど)の使用について

- 梱包状態ではストープがパレットに載っているため、パレットローダーやハンドリフトを使用して運びます。
- 開こん後は二輪台車などを使用して運びます。

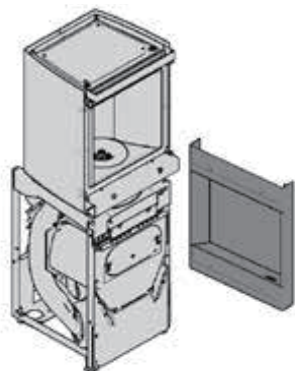


## 開こん後、ストープを運ぶ

### ■二輪台車を使って運ぶ

#### 1 燃焼室扉を取り外す。

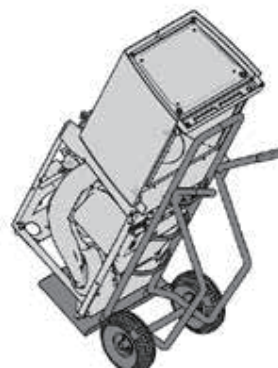
- ①11ページを参照して、燃焼室扉を開いてください。
- ②燃焼室扉を持ち上げて、取り外してください。



#### 2 二輪台車にストープを載せる。

ストープ正面が二輪台車の本体にあたるように載せてください。

#### 3 ストープを運ぶ。



※燃焼室扉や本体扉を外さないとキズが付くおそれがあります。

## ⑥ ストープの運びかた

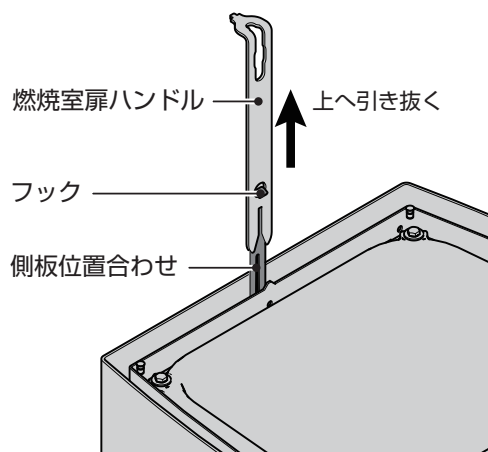
### 開こん後、ストーブを運ぶ (つづき)

#### ■ 燃焼室と本体を分離して運ぶ

※分離して燃焼室と本体を運ぶ場合も、必ず二人以上で持ち運んでください。

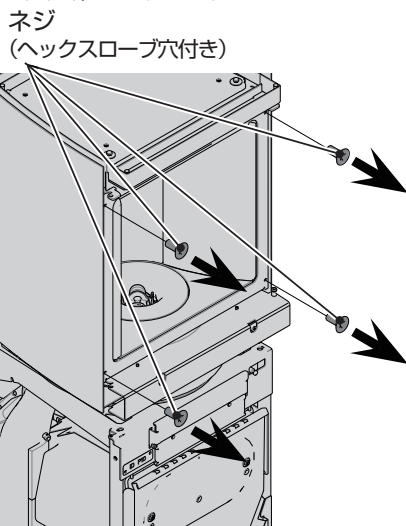
#### 1 側板位置合わせを取り外す。

- ① 燃焼室扉ハンドルを側板位置合わせのフックに引っ掛けてください。
- ② 位置決めガイドを引き抜いてください。

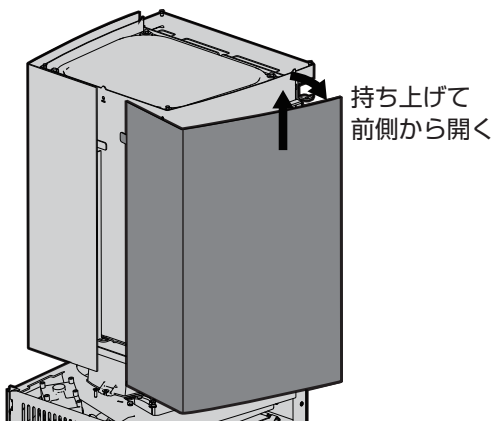


#### 2 燃焼室側板 L と R を取り外す。

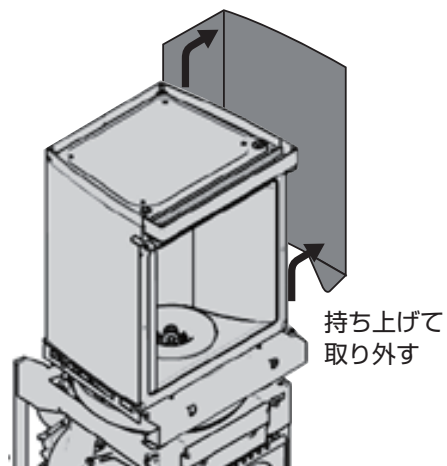
- ① ネジ (4箇所) を取り外してください。



- ② 燃焼室側板 L を取り外してください。

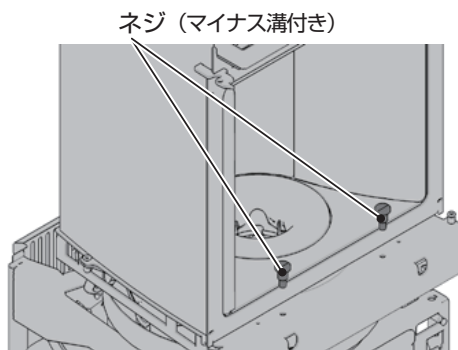


- ③ 燃焼室側板 R を取り外してください。

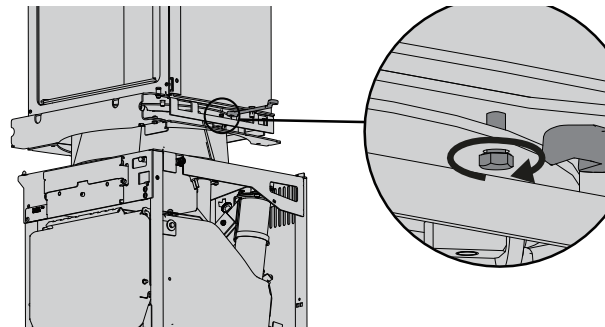


#### 3 燃焼室を取り外す。

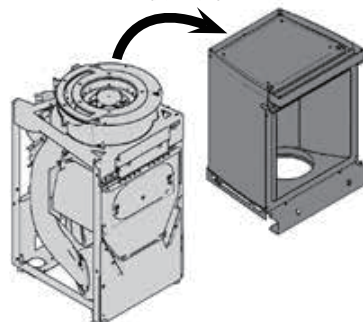
- ① 前側のネジ (2箇所) を取り外してください。



- ② 右側のボルト (1箇所) を取り外してください。



- ③ 燃焼室を取り外して分離してください。  
(あらかじめフレームモデラーやパーミキュライトリングは取り外してください。)



# 7 据付け

## 据付け場所の選定

- ストーブを据付ける床面は強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、安定していることが必要です。必要に応じて床面の補強をおこなってください。(ストーブの重量約 175kg)
- ストーブは水平になるように設置してください。ストーブが水平でないと、異常燃焼の原因になることがあります。
- ストーブは冷気の入ってくる方向、例えば外気に接する窓の下、壁面に設置すると効果的です。ただし、人の通る所や可燃物の近くには設置しないでください。
- 交流100Vの電気コンセントの位置を考慮してください。また、コンセントは雨や水がかかったり、ほこりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しないでください。
- 理・美容院、メッキ、塗装工場、繊維関係工場などスプレーや化学薬品を利用する場所及びほこりの多い場所では使用しないでください。また温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- 室内から給気する場合は、下部換気口および上部換気口を設けてある部屋にストーブを設置してください。換気口がない場合は、ストーブに直接給気するか、換気口を新設してください。
- ストーブは十分に換気できる場所に設置してください。
- 可燃性ガスが発生しない場所または、たまるおそれのない場所に設置してください。

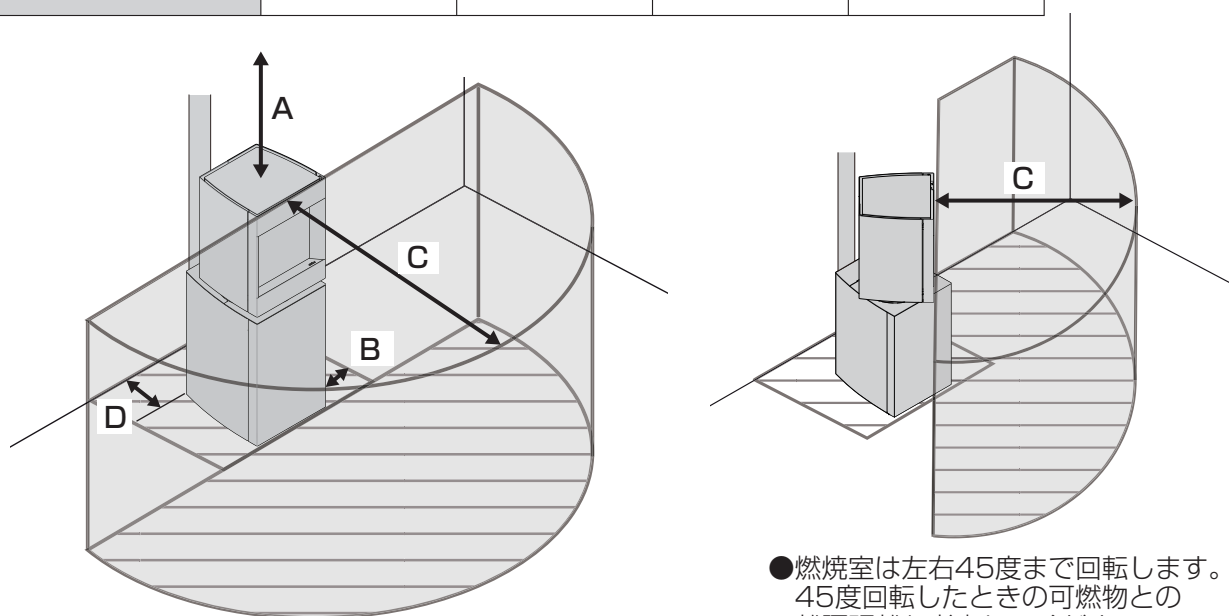
## ストーブと可燃物との離隔距離の規定について

ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離が、以下の規定通りになる場所を選んでください。

### ■総務省令第 24 号で定めている火災予防上安全な距離

ストーブの場合、以下に示す基準となっています。

対象火気設備又は対象火気器具等の種別	離隔距離 (cm)			
	上方(A)	側方(B)	前方(C)	後方(D)
ストーブ	150	100	150	100





## 7 据付け

# ストーブと可燃物との離隔距離の規定について (つづき)

### ■離隔距離の短縮について

火災予防上安全な距離として前記離隔距離が規定されておりますが、下記内容に基づき各自治体の消防長または消防署長の判断のもと離隔距離の短縮が可能になります。

総務省令第24号第4条に基づく離隔距離の短縮

項目	内容(概要)
総務省令第24号第4条、第19条	不燃材料で仕上げをした建築物等の部分の構造が耐火構造で、かつ主要な部分(間柱、下地など)を準不燃材で造ったもの。 又は 当該建築物の部分の構造が耐火構造以外の構造の場合は、主要な部分を不燃材で造ったもの(有効に遮熱できる場合)

火災予防条例に定める規定の他に、不燃材等を使用して火災予防上安全な距離(離隔距離)を超えて距離短縮等をおこなう等の消防署に判断が委ねられる内容については、個別に設置場所を管轄する消防署に確認していただくことが必要です。

### ■平成14年消防庁告示1号に基づく離隔距離の短縮(メーカー離隔距離)

項目	内容(概要)
平成14年消防庁告示1号	周囲の壁の表面温度が100℃を超えない距離や引火しない距離を確保する等の措置を講じれば離隔距離が短縮できること(室温条件35℃条件)

当社では上記規定に基づいて離隔距離の短縮を図る目安として、周囲の壁の表面温度が100℃未満となる距離として下記距離を確認しております。  
当該距離による設置適用に関しては消防署判断となるため設置場所を管轄する消防署の確認が必要です。

離隔距離(cm)			
上方(A)	側方(B)	前方(C)	後方(D)
150cm以上	10cm以上	100cm以上	8cm以上

## 据付け方法

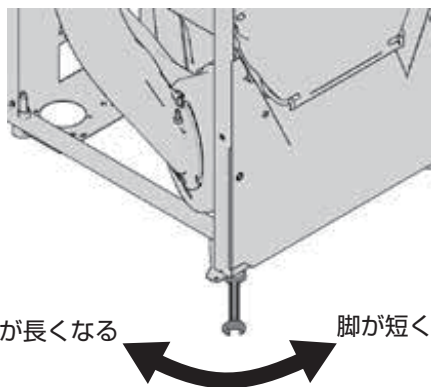
### 1 ストーブ本体を設置する。

- 選定した据付け場所にストーブ本体を設置してください。

### 2 水準器を見ながら水平を調節する。

- 10mmスパナで調節脚の六角部を回すと脚の長さかわります。  
4箇所の調節脚で、水準器を見ながら水平になるように調節してください。

(調節脚を完全に締めると、六角部にスパナが入らなくなります。)





# 8 排気管および排気トップと給気管の取り付け

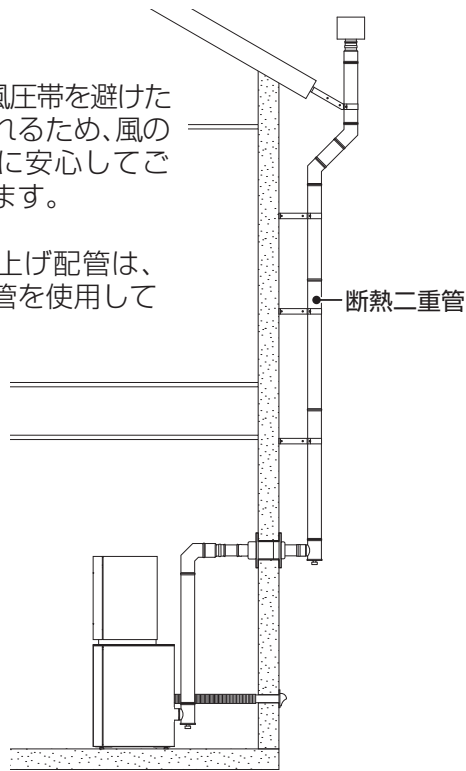
## 排気管および排気トップの設置方法

排気管および排気トップは以下のいずれの方法でも設置可能ですが、風の影響を受けない屋根上へのトップ設置を推奨します。

### 屋根上に排気トップを設置 (推奨)

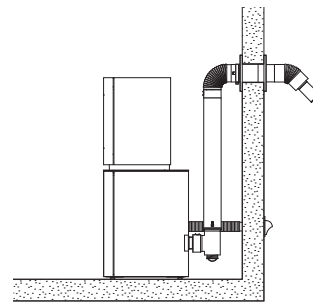
排気トップは風圧帯を避けた場所に設置されるため、風の影響を受けずに安心してご使用いただけます。

※屋外の立ち上げ配管は、断熱二重配管を使用してください。



### 1~2m立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合)

排気トップは風圧帯内に設置されるため、強風発生時に燃焼ガスが室内へ一時的に排出されるおそれがあります。



## 排気管の直径

- 排気管は直径80mmを使用してください。

## 給気管の取り出し場所

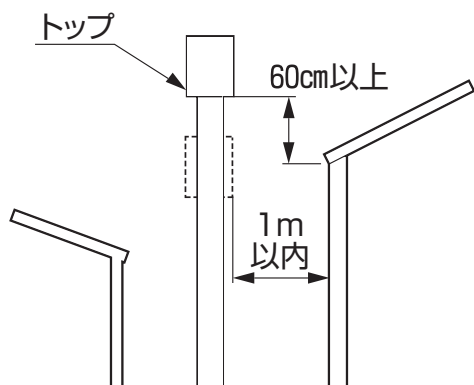
- 屋外の給気口が閉そくされないようにしてください。  
積雪の多い地域では、給気口が雪でふさがれないように注意してください。

## 8 排気管および排気トップと給気管の取り付け

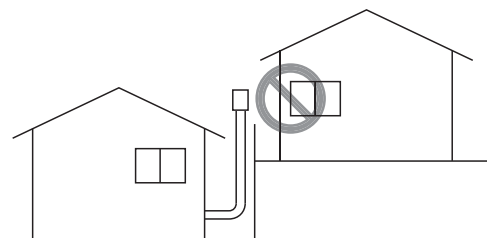
### 排気トップの位置

#### 屋根上に排気トップを設置

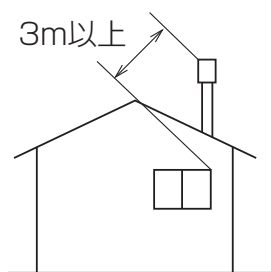
- 排気トップは屋根面から垂直距離60cm以上離してください。  
排気トップから水平距離1m以内に隣接家屋などの軒がある場合は、さらにそれより60cm以上、離してください。



- 排気トップの位置は、出入口に近いところ、また、外気が室内に入りやすい場所は避けてください。  
(隣の家ににおいが入ることは迷惑になります。)

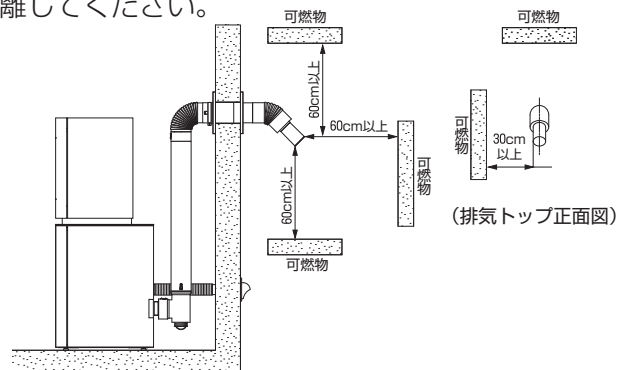


- 開口部（窓など）からは、3m以上離してください。

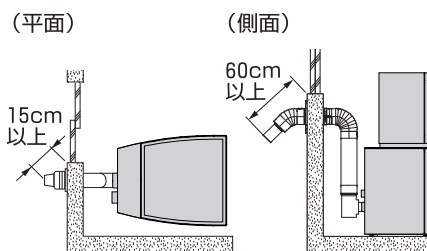


#### 1~2m立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合)

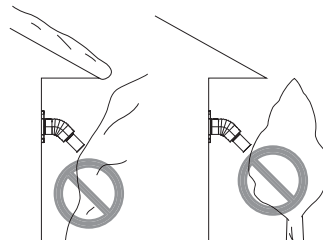
- 積雪の多いときに排気トップの周りが、雪でふさがれない場所に設置してください。
- 排気トップと可燃物との距離を下図のように離してください。



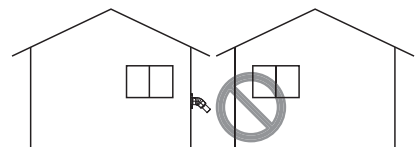
- 排気トップと開口部（窓など）との距離は、下図のように離してください。



- 人通りの多い場所や可燃性ガスの発生する所には、排気トップを取り付けしないでください。
- 排気トップの先端には、樹木などの障害物がないようにしてください。



- 排気トップの位置は、出入口に近いところ、また、外気が室内に入りやすい場所は避けてください。  
(隣の家ににおいが入ることは迷惑になります。)

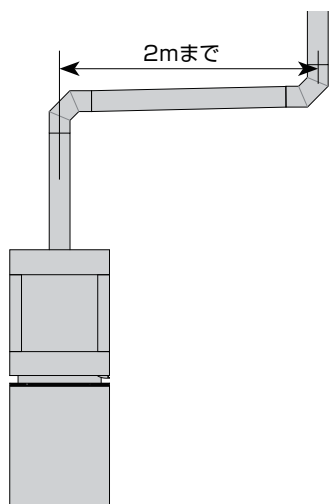


- 排気トップの吹き出し方向および上方に壁があるところは避けてください。  
(壁がススで汚れるおそれがあります。)
- 小さなお子様がふれるような所には、排気トップを取り付けしないでください。  
(やけどやけがををするおそれがあります。)

## 排気管の横引き・立ち上がりの寸法

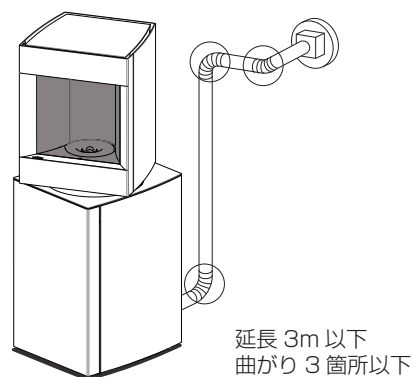
### 屋根上に排気トップを設置

- 排気管の立ち上がりの標準寸法は、5mです。
- 排気管の横引き寸法は、立ち上がりの標準寸法5mに対して2mまでです。横引きはできるだけ短くし、曲がりは3箇所以下になるようにしてください。



### 1~2m立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合)

- 排気管の立ち上がりは、1~2mにしてください。
- 排気管の立ち上がり部の長さとし、曲げ数は、長さ3m以下、曲げ数3箇所以下です。



## 排気管内の結露水凍結防止について

- 厳寒地域では屋外の排気管内結露水が凍結して、排気管がふさがれることがありますので、充分に注意してください。  
屋外の排気管は必ず断熱二重管を使用してください。
- 立ち上げ部の接続は、T字管を使用してください。エルボの使用はおやめください。
- 屋外の横引きは設けないでください。

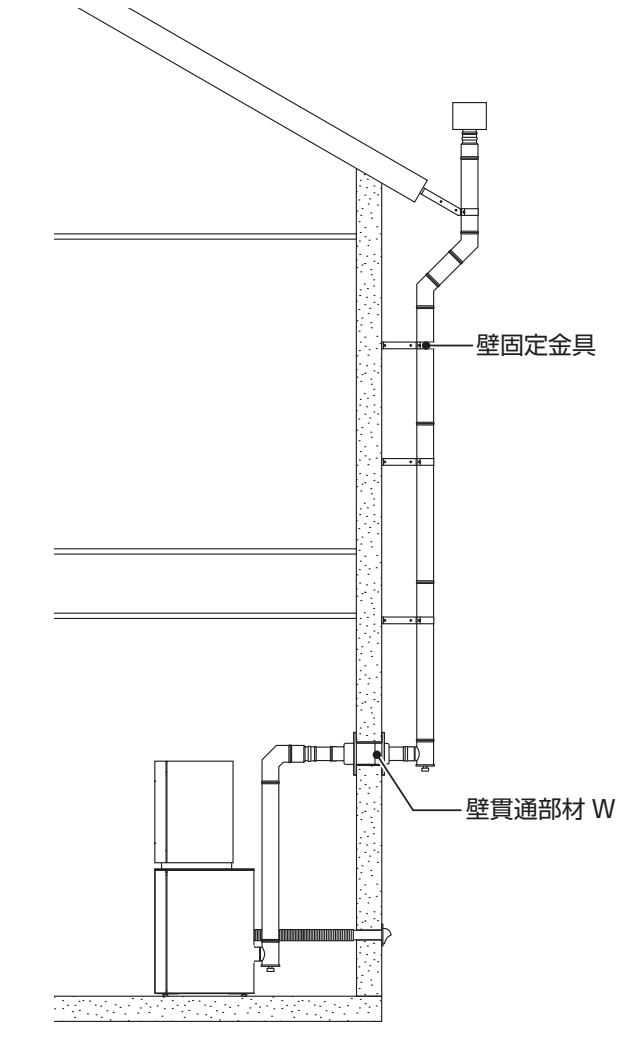
## 8 排気管および排気トップと給気管の取り付け

### 排気・給気管の取り付け図と配管図 (例)

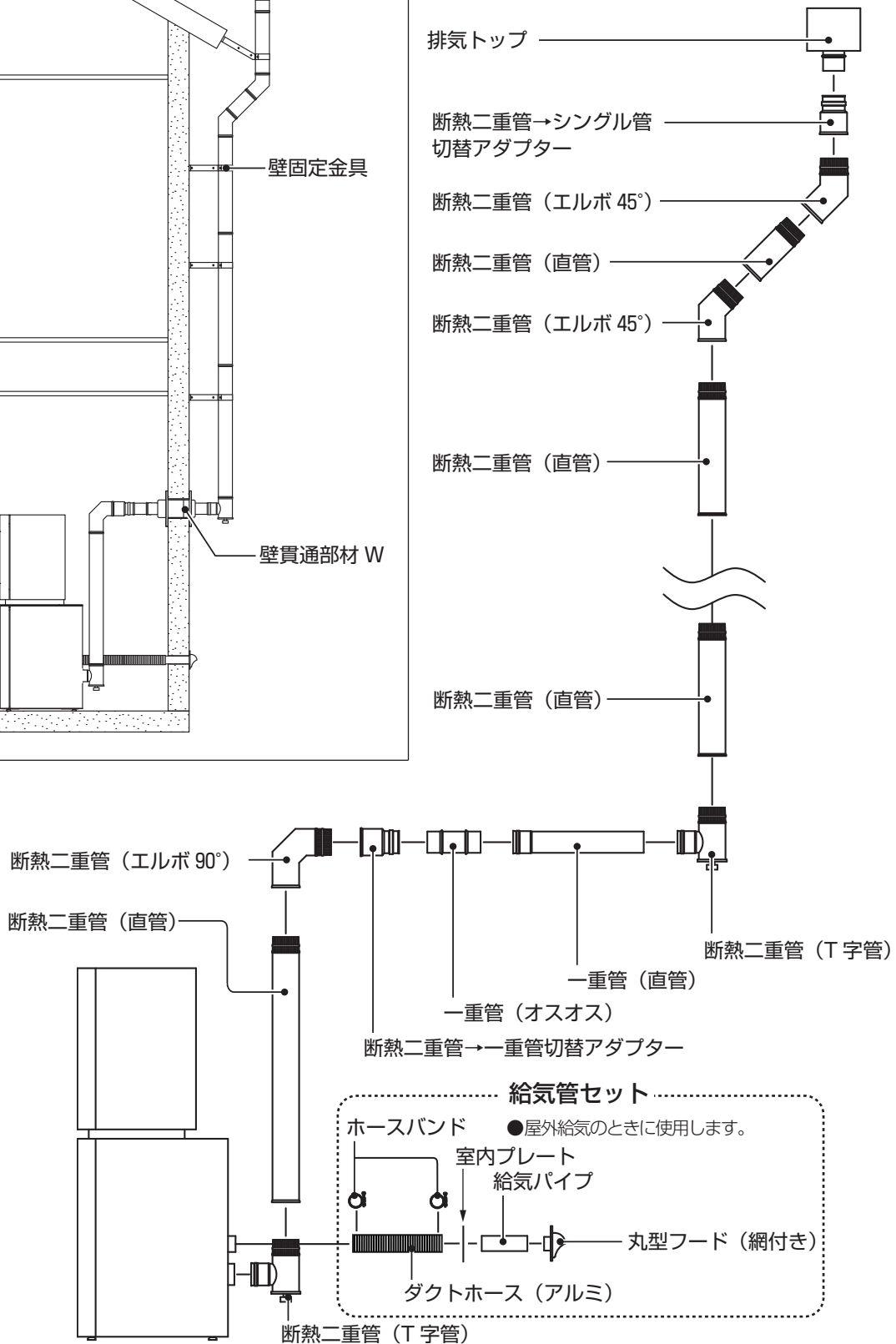
屋根上に排気トップを設置

■室内で立ち上げてから屋外で立ち上げる場合

●取り付け図 (例)



●配管図 (例)

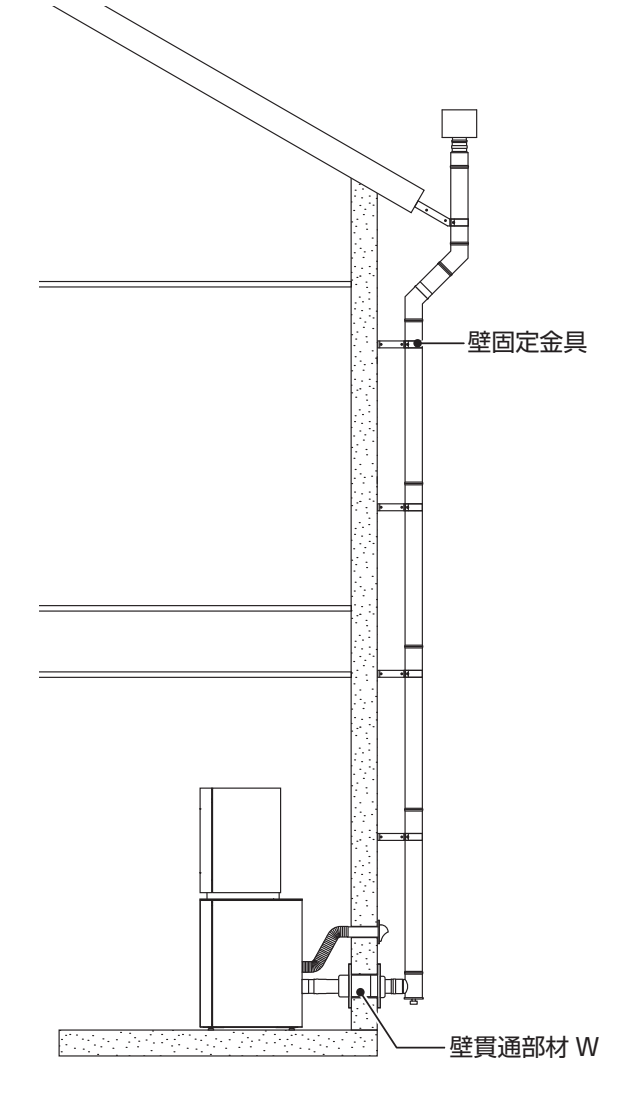


# 排気・給気管の取り付け図と配管図（例）（つづき）

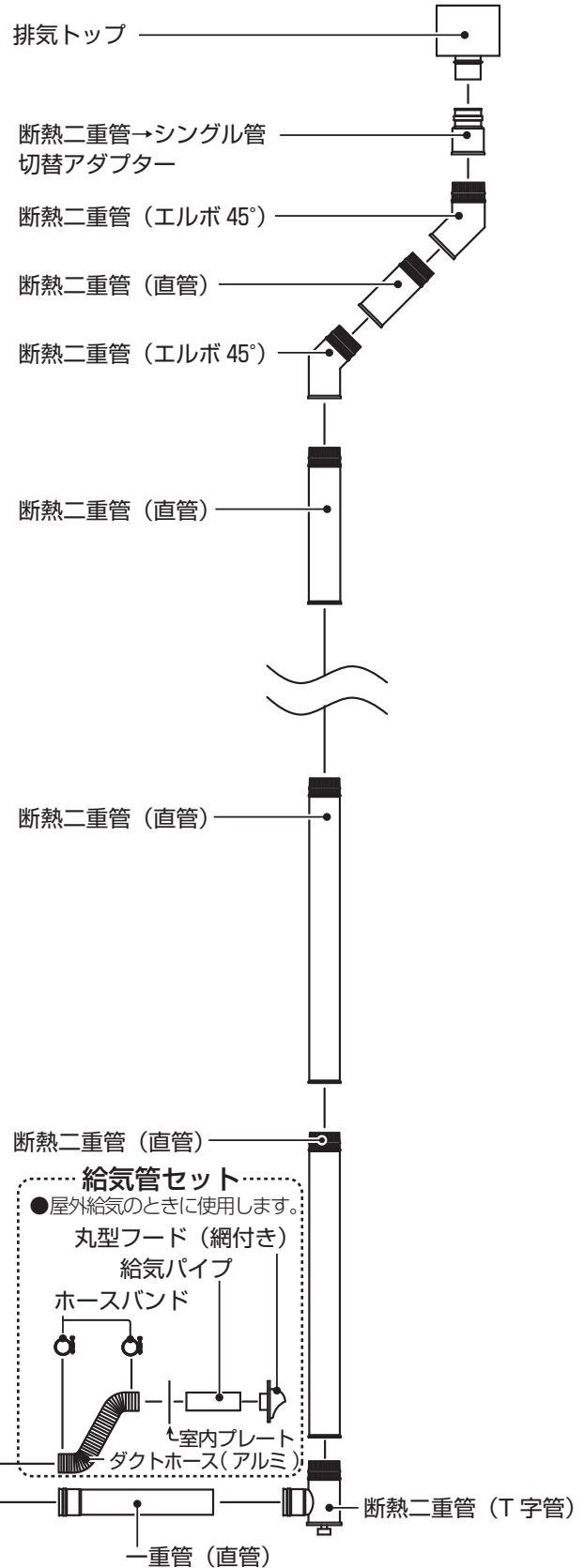
屋根上に排気トップを設置

■屋外で立ち上げる場合

●取り付け図（例）



●配管図（例）



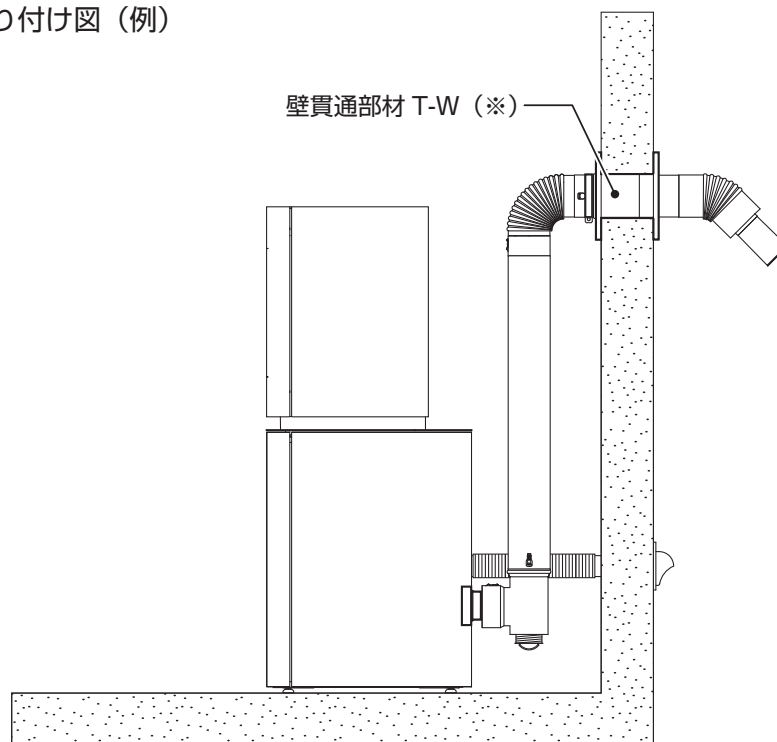
## 8 排気管および排気トップと給気管の取り付け

### 排気・給気管の取り付け図と配管図 (例) (つづき)

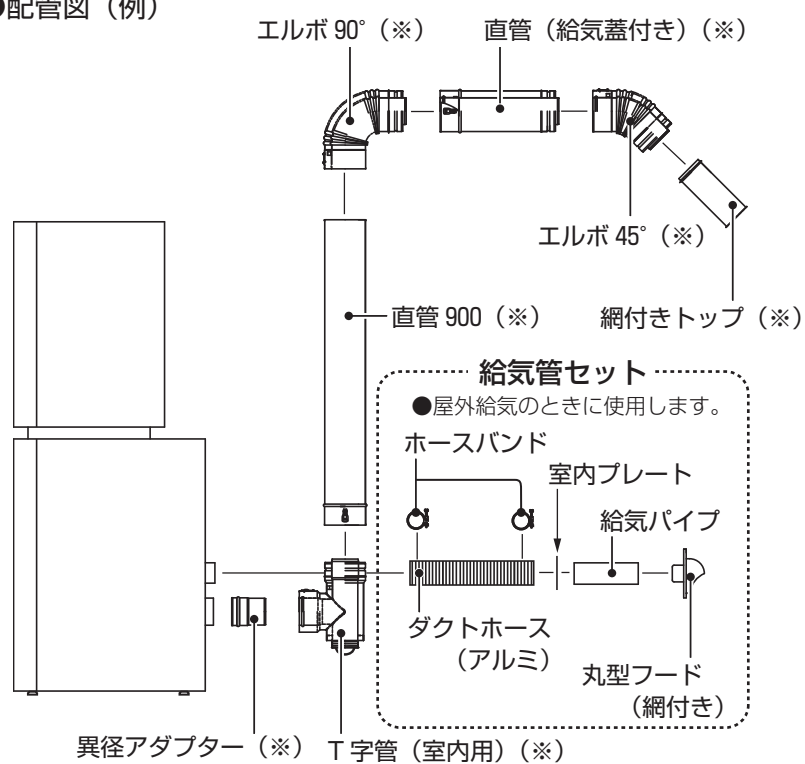
1~2m立ち上げて排気トップを設置  
(風圧帯内へ設置する場合)

#### ■室内で立ち上げ

#### ●取り付け図 (例)



#### ●配管図 (例)



※印の部品は屋内立ち上げセット「T-YNS(B)」の同梱品

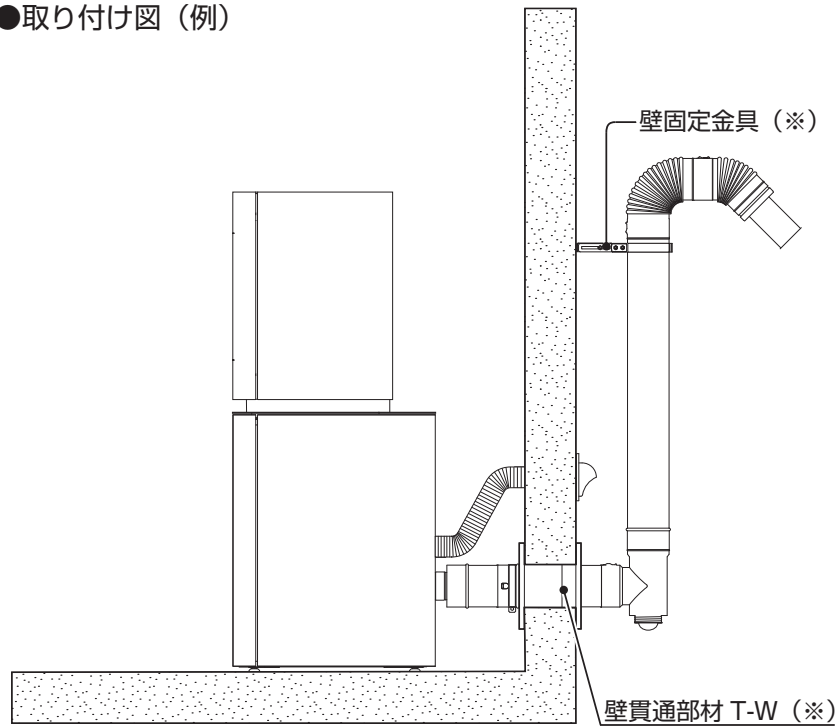


# 排気・給気管の取り付け図と配管図（例）（つづき）

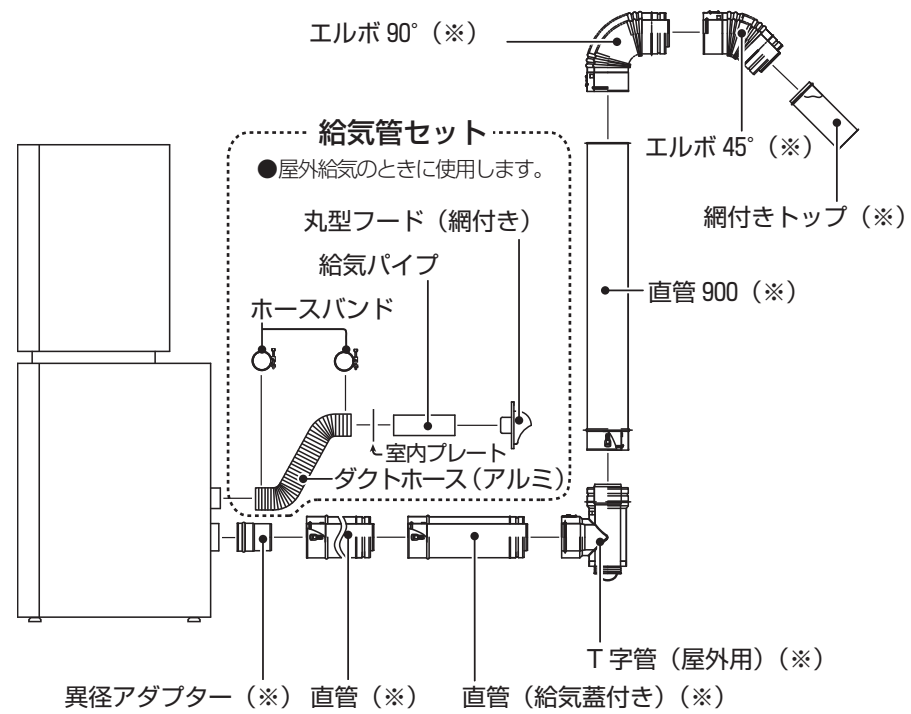
1～2m立ち上げて排気トップを設置  
(風圧帯内へ設置する場合)

## ■屋外で立ち上げ

### ●取り付け図（例）



### ●配管図（例）



※印の部品は屋外立ち上げセット「T-YGS(B)」の同梱品

## ⑧ 排気管および排気トップと給気管の取り付け

### 壁貫通部の工事方法と配管

#### お願い

- 壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・水道の配管を充分考慮してください。
- 壁貫通部材 T-W の対応壁厚は 110~200 mm です、W の対応壁厚は 120~200mm です。  
T-W の場合はさらに別売部品を使用することで壁の厚さは 450 mm まで対応可能です。  
110 mm 未満、または 200 mm 以上 450 mm 以下の場合は当社へご相談ください。
- 取付けの際はケガをしないように手袋をはめておこなってください。

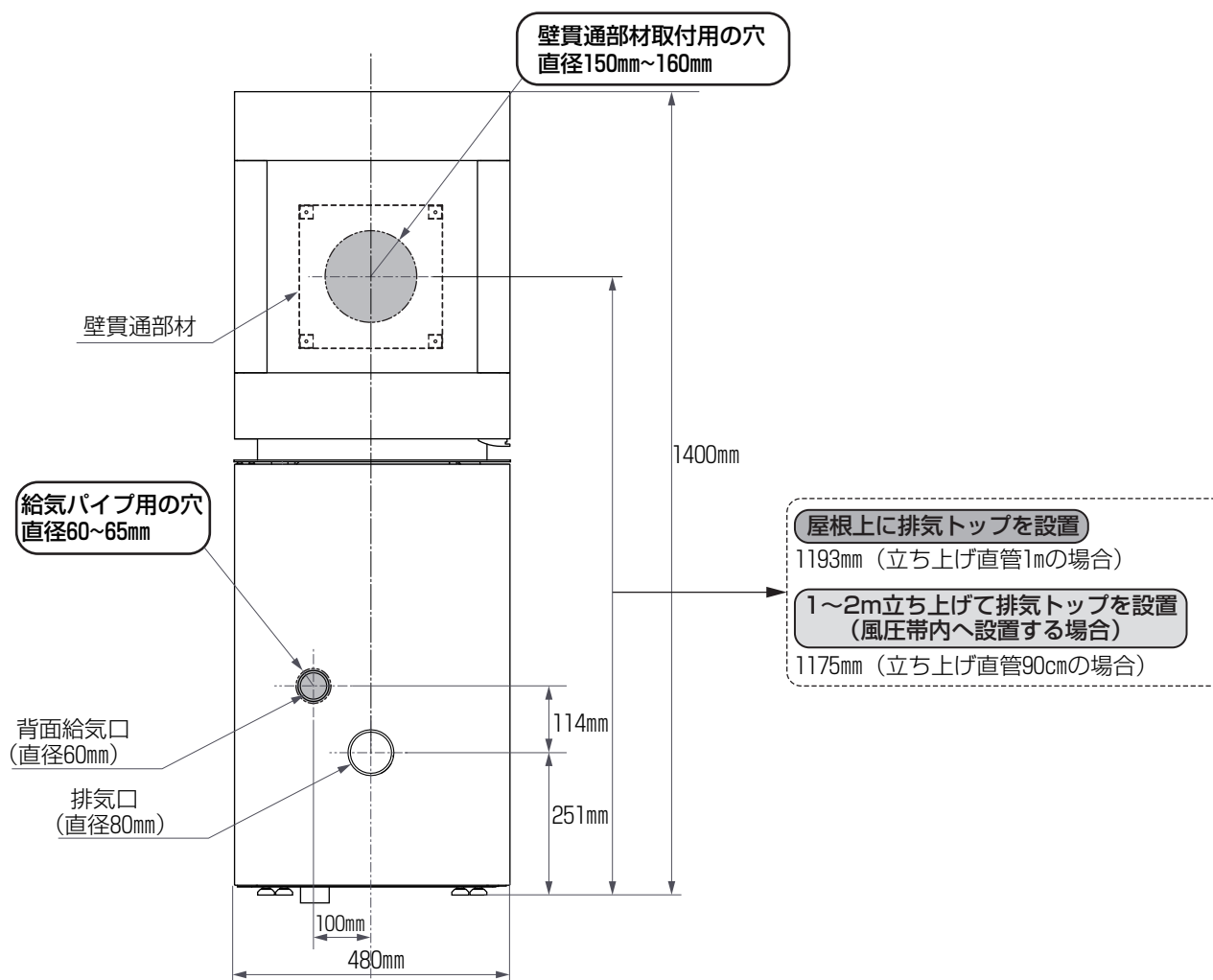
#### ■給気・排気管を通す穴位置を決める

屋根上に排気トップを設置 1~2m 立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合)

#### 1 ストープの設置場所を決める。

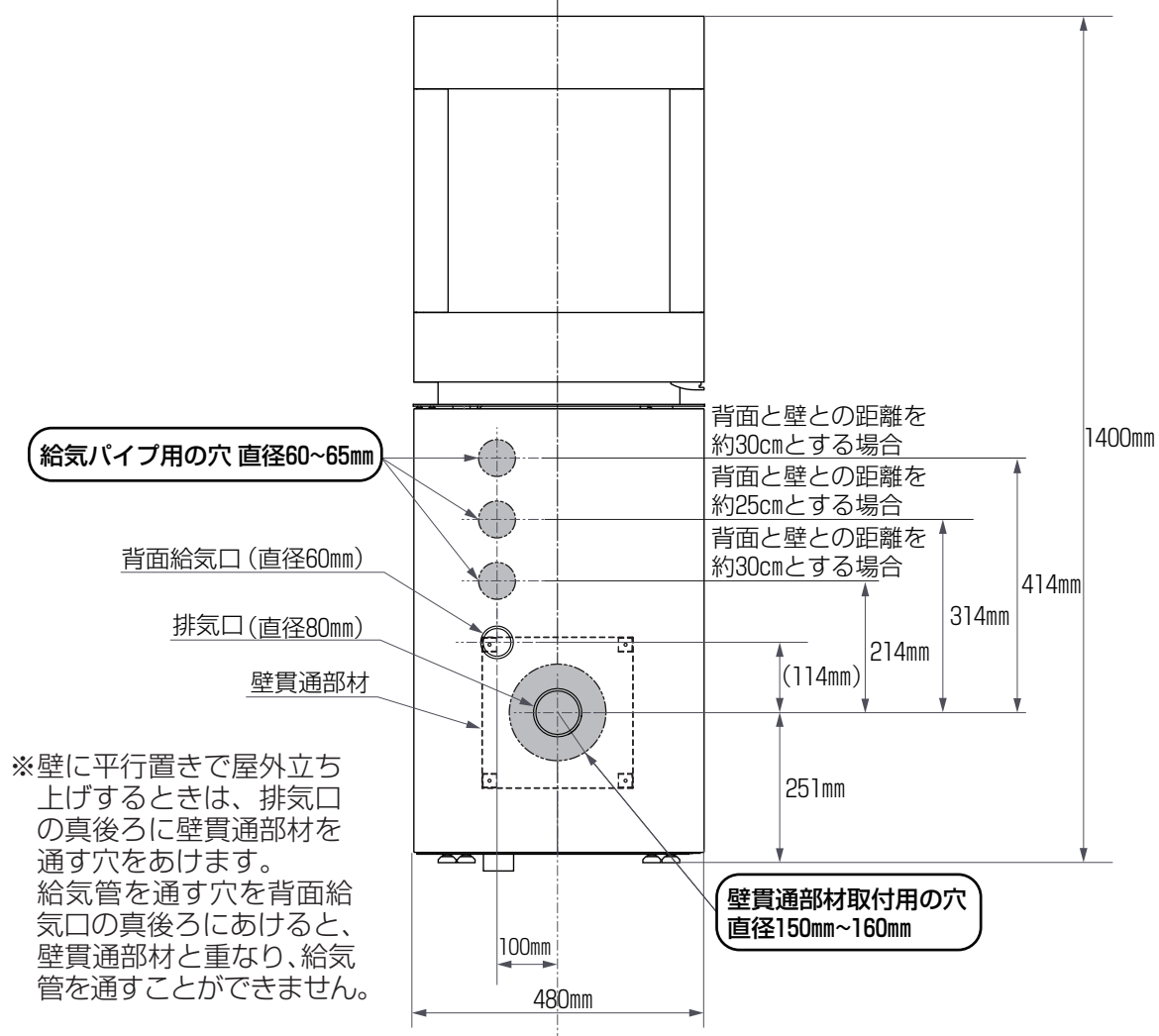
#### 2 給気・排気管を通す穴位置を決める。

- 室内立ち上げでストーブ背面の壁を通す場合 (例)



# 壁貫通部の工事方法と配管 (つづき)

●ストーブ背面の壁を通して屋外に立ち上げた場合 (例)



## 3 壁に印をつける。

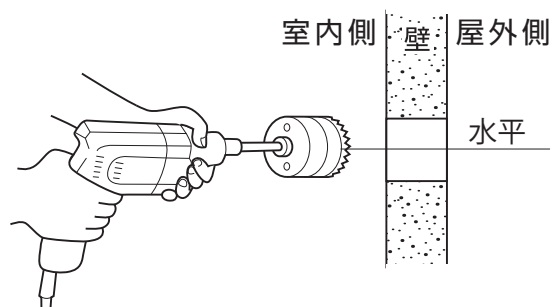
- 穴位置が決まりましたら、穴をあける位置に印をつけてください。(※屋外から給気する場合は、給気パイプを通す位置にも印をつけてください。)

## ■壁に穴をあける

屋根上に排気トップを設置 (1~2m立ち上げて排気トップを設置 (風圧帯内へ設置する場合))

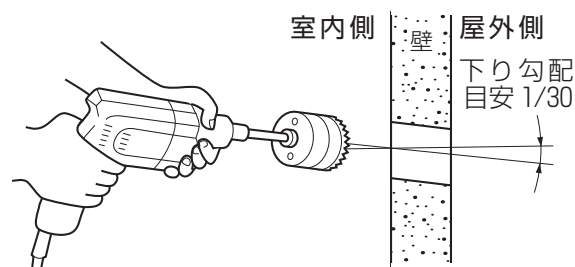
### 1 壁に壁貫通部材を通す穴をあける。

- 印をつけた位置に直径 150mm~160mm の穴を水平にあけてください。



### 2 (屋外から給気する場合) 壁に給気パイプを通す穴をあける。

- 印をつけた位置に、直径 60 ~ 65mm の穴を室内から屋外へ向けて下向きにあけてください。



## ⑧ 排気管および排気トップと給気管の取り付け

### 壁貫通部の工事方法と配管(つづき)

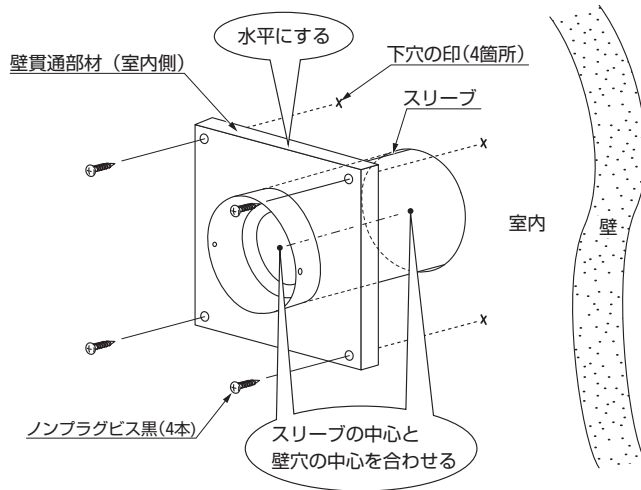
屋根上に排気トップを設置

#### ■排気管の壁貫通部の工事 (壁貫通部材 W の場合)

室内側からの工事

#### 1 壁貫通部材 (室内側) を固定するネジの下穴をあける。

- ①壁穴に壁貫通部材 (室内側) を差し込んでください。
- ②スリーブの中心と壁穴の中心が合うようにまた壁貫通部材が水平になるように合わせ、固定ネジ位置 4 箇所に印をつけてください。
- ③壁貫通部材 (室内側) を一旦取り出してください。
- ④印をつけた位置に下穴直径 3.4mm をあけてください。(4 箇所)  
※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。

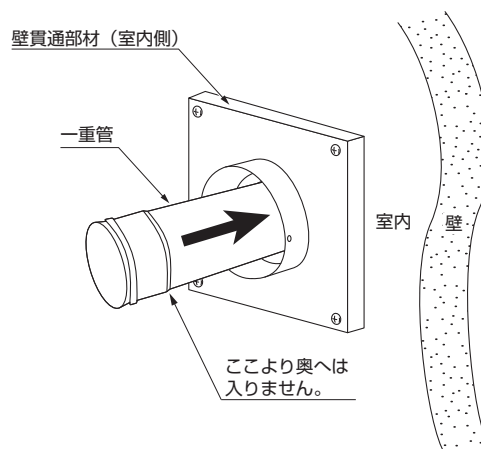


#### 2 壁貫通部材 (室内側) を室内の壁に固定する。

- ノンプラグビス(4本)で固定してください。

#### 3 一重管を通す。

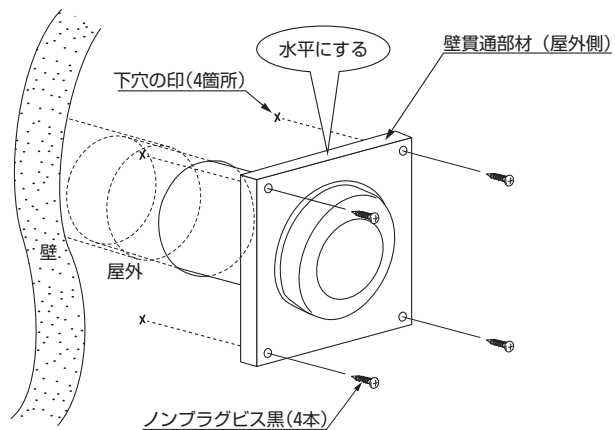
- 一重管を通し、屋外からの工事へ進んでください。



屋外側からの工事

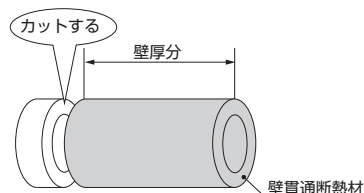
#### 4 壁貫通部材 (屋外側) を固定するネジの下穴をあける。

- ①壁穴に壁貫通部材 (屋外側) を差し込み、室内側に取り付けた壁貫通部材にスリーブをはめ込んでください。
- ②壁貫通部材が水平になるように合わせ、固定ネジ位置 4 箇所に印をつけてください。
- ③壁貫通部材 (屋外用) を一旦取り出してください。
- ④印をつけた位置に下穴直径 3.4mm をあけてください。(4 箇所)  
※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。  
※穴あけ部は雨水が浸入しないように処置してください。



#### 5 壁貫通断熱材を準備する。

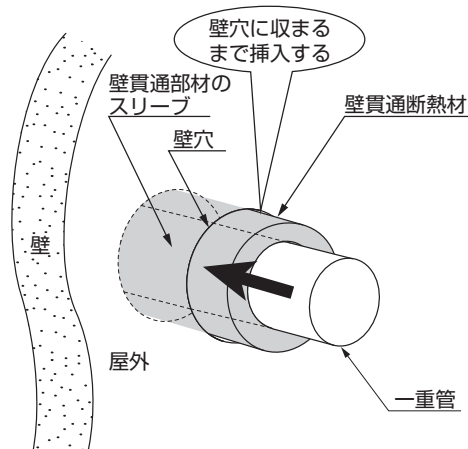
- 壁貫通断熱材を壁の厚さに合わせてカッターなどでカットしてください。



## 壁貫通部の工事方法と配管(つづき)

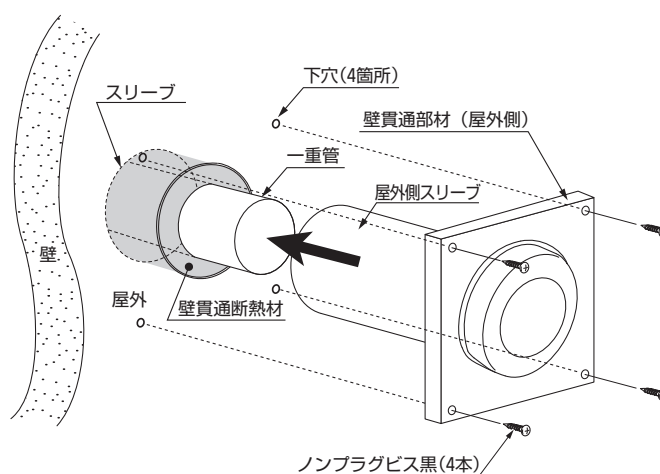
### 6 壁貫通断熱材を一重管と壁貫通部材のスリーブの間に挿入する。

- ①一重管に壁貫通断熱材を通してください。
  - ②一重管を手前に引っ張りながら壁貫通断熱材を挿入してください。
- ※配管に合わせて、一重管を手前に引いたり、押し込んだりして、出幅を調節してください。



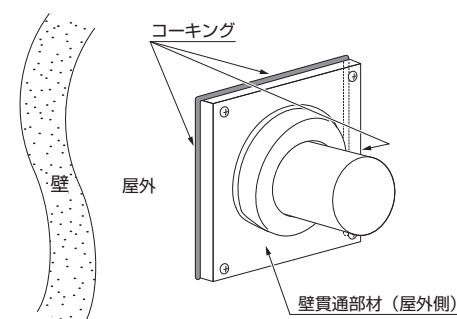
### 7 壁貫通部材（屋外側）を屋外の壁に固定する。

- ①壁貫通部材（屋外側）の穴を壁から出ている一重管に差し込んでください。
  - ②屋外側のスリーブを壁穴に挿入して、壁貫通部材（室内側）のスリーブにはめ込んでください。
- ※壁貫通断熱材がスリーブの内側に入るように、ゆっくりとはめ込んでください。
- ③ノンプラグビス(4本)で固定してください。



### 8 壁貫通部材（屋外側）のフランジ部にコーキング剤を塗る。

- ①屋外側は雨水が浸入しないように、壁貫通部材の上部、左右側面の3箇所をシリコンなどからできているコーキング剤を塗ってください。



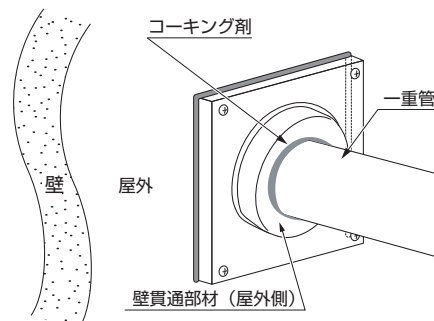
## ■配管（壁貫通部材 W の場合）

### 1 壁貫通部の一重管（直管）に排気管を取り付け、配管する。

- 19・20ページの「取り付け図と配管(例)」のように各部材を取り付けてください。
- 立ち上げ部分は壁固定用バンドで支持してください。  
排気管がほぼ垂直となるようにしっかりと壁面に固定してください。  
※ネジ固定部は雨水が浸入しないように処置してください。

### 2 壁貫通部材（屋外側）と一重管のすき間にコーキング剤を塗る。

- 雨水が浸入しないように壁貫通部材（屋外側）と一重管のすき間にシリコンなどからできている耐熱仕様のコーキング剤を塗ってください。



## ⑧ 排気管および排気トップと給気管の取り付け

### 壁貫通部の工事方法と配管(つづき)

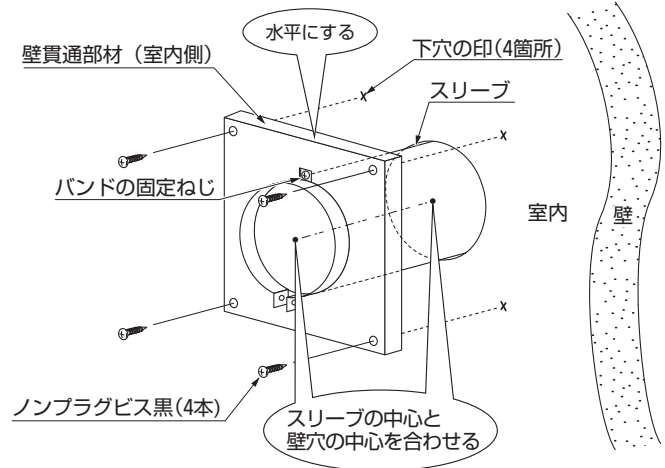
1~2m立ち上げて排気トップを設置(風圧帯内へ設置する場合)

#### ■排気管の壁貫通部の工事 (壁貫通部材 T-W の場合)

室内からの工事

#### 1 壁貫通部材(室内側)を固定するネジの下穴をあける。

- ①壁穴に壁貫通部材(室内側)を差し込んでください。
  - ②スリーブの中心と壁穴の中心が合うようにまた壁貫通部材が水平になるように合わせ、固定ネジ位置4箇所印をつけてください。
  - ③壁貫通部材(室内側)を一旦取り出してください。
  - ④印をつけた位置に下穴直径3.4mmをあけてください。(4箇所)
- ※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。



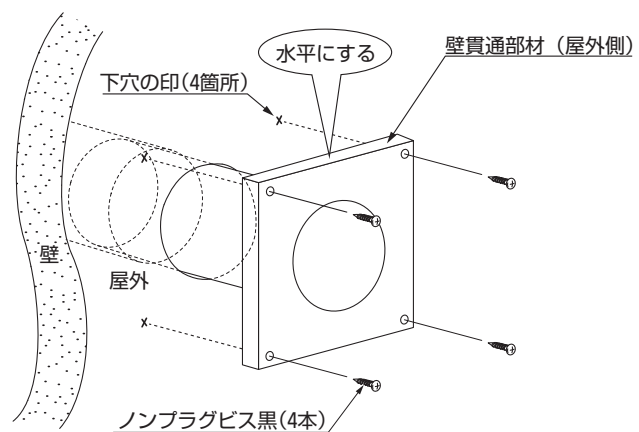
#### 2 壁貫通部材(室内側)を室内の壁に固定する。

- ①バンドの固定ネジが上になるように壁貫通部材室内側を壁穴に差し込んでください。
- ②ノンプラグビス(4本)で固定してください。

屋外からの工事

#### 3 壁貫通部材(屋外側)を固定するネジの下穴をあける。

- ①壁穴に壁貫通部材(屋外側)を差し込み、室内側に取り付けた壁貫通部材にスリーブをはめ込んでください。
  - ②壁貫通部材が水平になるように合わせ、固定ネジ位置4箇所印をつけてください。
  - ③壁貫通部材(屋外側)を一旦取り出してください。
  - ④印をつけた位置に下穴直径3.4mmをあけてください。(4箇所)
- ※アンカープラグを使用する場合は、プラグに見合う穴をあけてください。  
※穴あけ部は雨水が浸入しないように処置してください。



#### 4 壁貫通部材(屋外側)を屋外の壁に固定する。

- ①壁穴に壁貫通部材(屋外側)を差し込み、室内側に取り付けた壁貫通部材にスリーブをはめ込んでください。
- ②ノンプラグビス(4本)で固定してください。

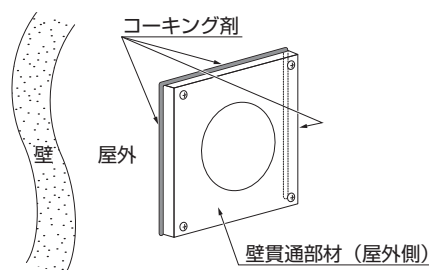


# 壁貫通部の工事方法と配管(つづき)

直管の取り付け

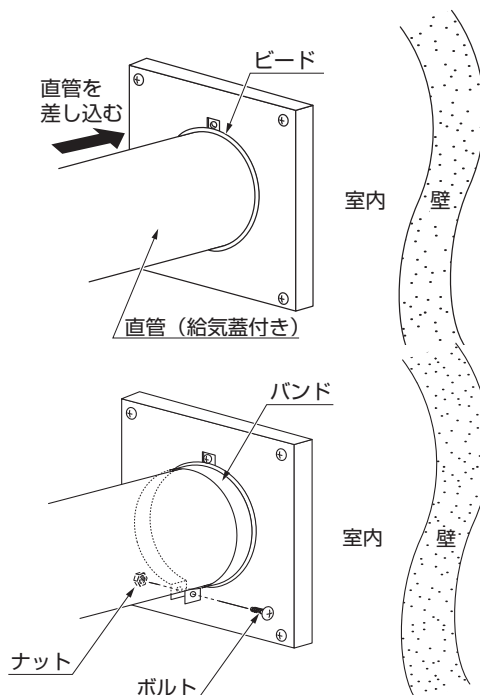
## 5 壁貫通部材（屋外側）のフランジ部にコーキング剤を塗る。

- 屋外側は雨水が侵入しないように、壁貫通部材の上部、左右側面の3箇所にシリコンなどからできているコーキング剤を塗ってください。



## 6 壁貫通部へ直管（給気蓋付き）を取り付ける。

- ①壁貫通部材（室内側）に取り付いているバンドのボルトとナットを取り外してください。
- ②直管を室内側から壁貫通部材に通し、直管の付け根ビード部まで差し込んでください。
- ③直管のビード外側を保持するようにバンドを取り付け、ボルトで固定してください。

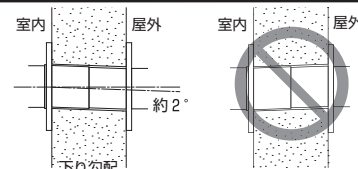


### ■配管（壁貫通部材 T-W の場合）



**注意**

- 排気管の取り付けは屋外側に向かって約2°の下り勾配となるようにしてください。



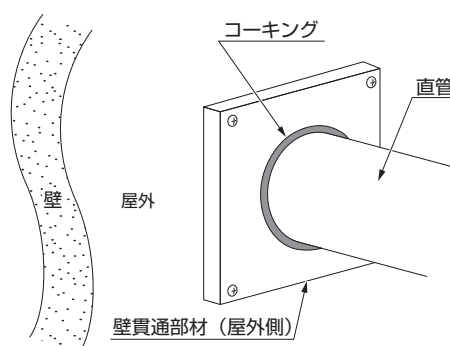
## 1 壁貫通部の直管に排気管を取り付け配管する。

- 21・22ページの「取り付け図と配管(例)」のように各部材を取り付けてください。  
※各配管接続部は抜け止め機構が有効になる位置まで確実に差し込んでください。
- 壁固定金具の取付けは排気管がほぼ垂直となるようにしっかりと壁面に固定してください。  
※ネジ固定部は雨水が侵入しないように処置してください。

配管

## 2 壁貫通部材（屋外側）と直管のすき間にコーキング剤を塗る。

- 雨水が浸入しないように壁貫通部材（屋外側）と直管のすき間にシリコンなどからできている耐熱仕様のコーキング剤を塗ってください。



## ⑧ 排気管および排気トップと給気管の取り付け

### 給気管の取り付け

#### ストーブ背面の壁に給気管を通す場合

#### ■別売の給気管セット

給気管は別売の給気管セットを用意してください。

##### 給気管セット

- 丸型フード ……1 個
- 給気パイプ ……1 個
- ダクトホース ……1 個
- ホースバンド ……2 個
- 室内プレート ……1 個

#### ■給気管の取り付け

##### 1 壁に穴をあける。

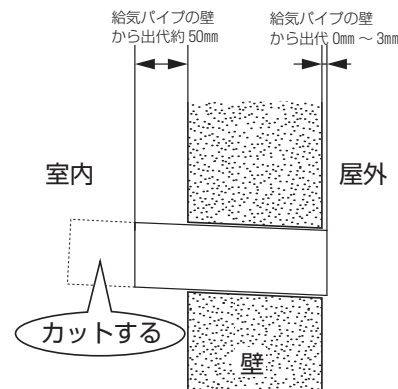
23・24 ページの「壁貫通部の工事方法」に従って、給気パイプを通す穴をあけてください。

##### 2 給気パイプを加工する。

室内の壁から約 50mm、屋外の壁から 0mm ~ 3mm 出る長さに、給気パイプをカットして、壁から出代を設けてください。

(ダクトホースと丸型フードを取り付けるため)

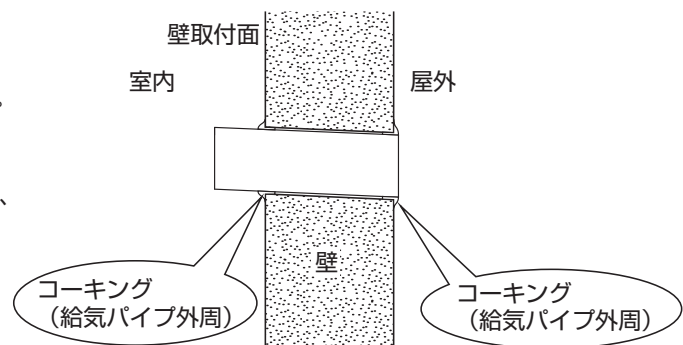
※給気パイプのカット面にバリが残っている場合は、カッターやヤスリで仕上げてください。



##### 3 給気パイプを壁に固定する。

給気パイプ外周と取付壁にコーキング剤（シリコンシーラントなど）を塗布して給気パイプがぐらつかないように固定してください。

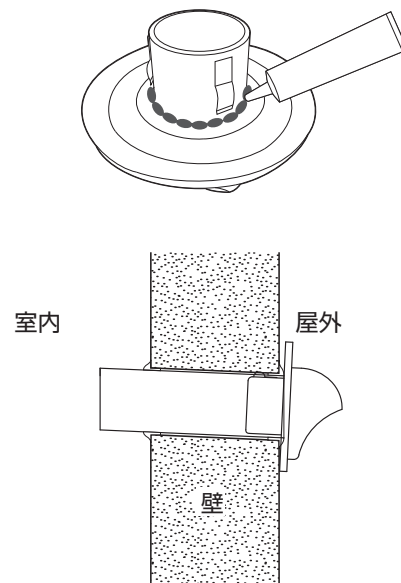
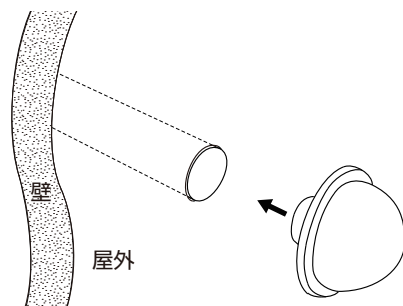
※壁穴と給気パイプとのすき間が大きい場合は、すき間を埋めてからおこなってください。



##### 4 丸型フードを取り付ける。

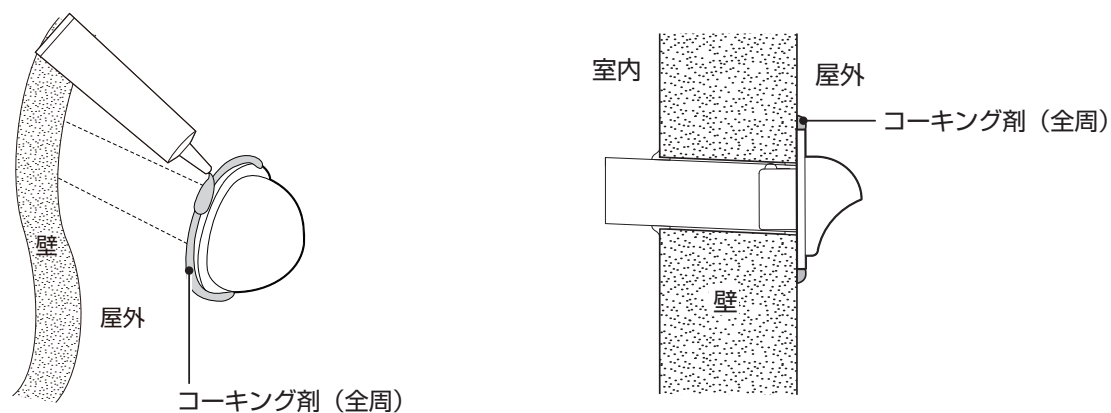
①丸型フードの差し込み周辺部（全周）にコーキング剤（シリコンシーラントなど）を塗布してください。

②屋外側から給気パイプに丸型フードを差し込んでください。



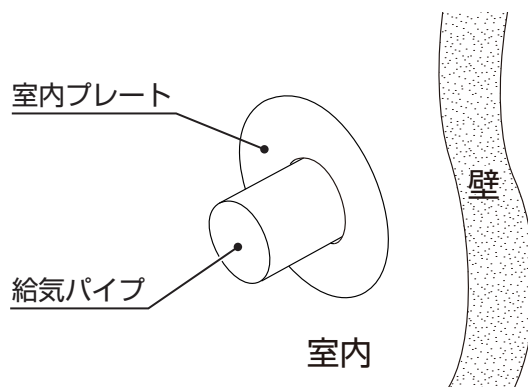
## 給気管の取り付け(つづき)

③丸型フード外周部にコーキング剤(シリコンシーラントなど)を塗布し、全周コーキングしてください。



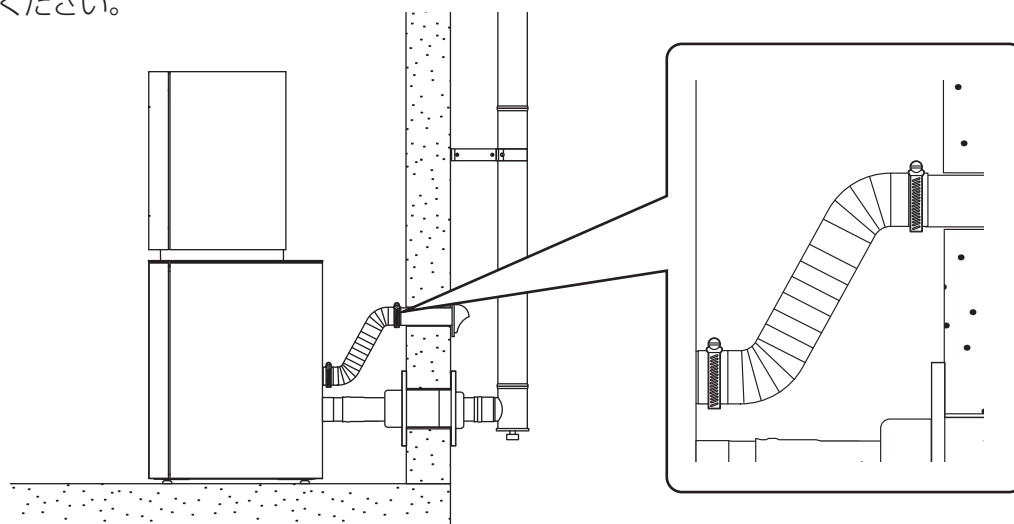
## 5 室内壁のパイプ外周に室内プレートを取り付ける。

室内プレートのシールを剥がして、壁に貼ってください。



## 6 ダクトホースを接続する。

給気用ダクトホースをストーブ本体の給気口と、先に取り付けた給気パイプに接続し、ホースバンドで固定してください。



※給気用ダクトホースは距離に応じてカットして長さを調整してください。

※給気用ダクトホースはアルミ製のため、無理な力を加えると破損するおそれがあります。  
給気用ダクトホースを曲げたり、接続するときはていねいに扱ってください。

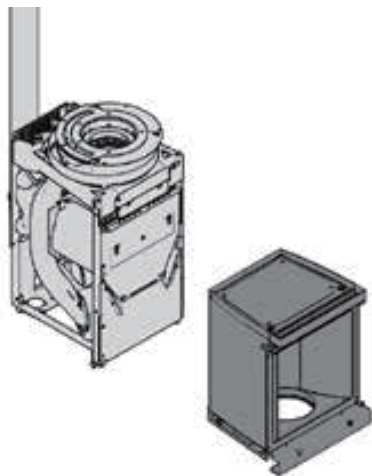
# 9 本体の組み立て

## 燃焼室の組み立て

●開こん（9～10 ページ）や据付け（12～13 ページ）をするときに取り外した部品を元の通りに組み立ててください。

### 1 燃焼室を本体の上に載せる。

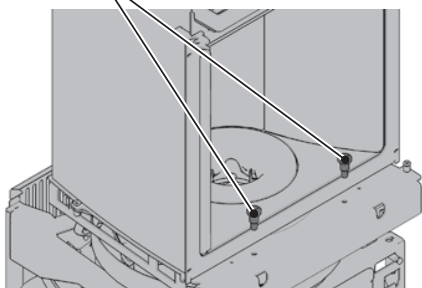
●必ず二人以上で持って載せてください。



### 2 燃焼室を回転して使用しないときは本体に燃焼室をネジで固定する。

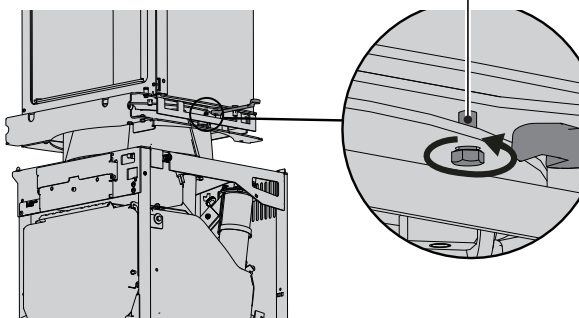
①前側の 2 箇所にネジを締め付けてください。

ネジ（マイナス溝付き）



②右側の 1 箇所にボルトを締め付けてください。

ボルト

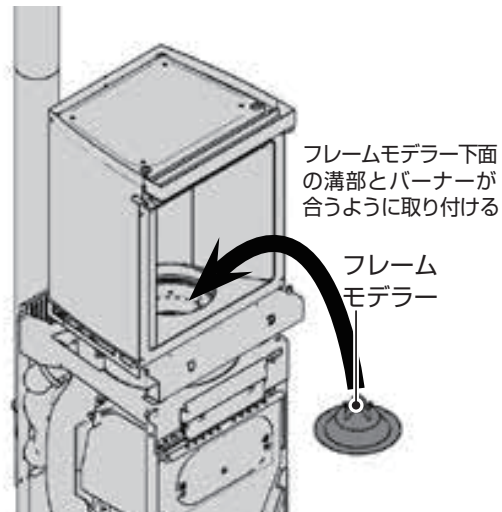


#### お願い

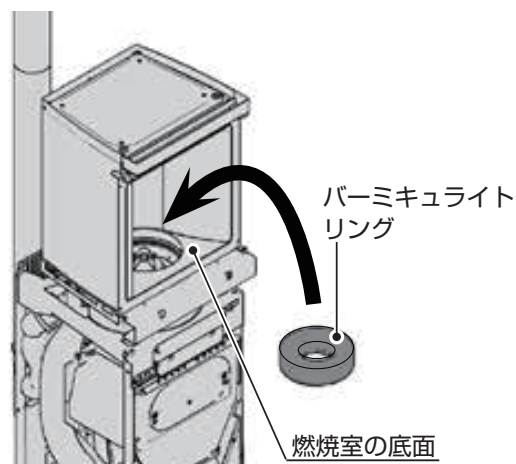
●燃焼室を回転（左右 45° まで）できるようにしたときは、回転したときの可燃物との離隔距離も考慮して設置してください。回転を考慮しない場合は、本体に燃焼室をネジで固定してください。

### 3 フレームモデラーとバーミキュライトリングを組み付ける。

①フレームモデラーを組み付けてください。

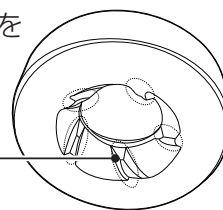


②バーミキュライトリングを組み付けてください。



※ビードの山がある方を下にしてください。

ビードの山



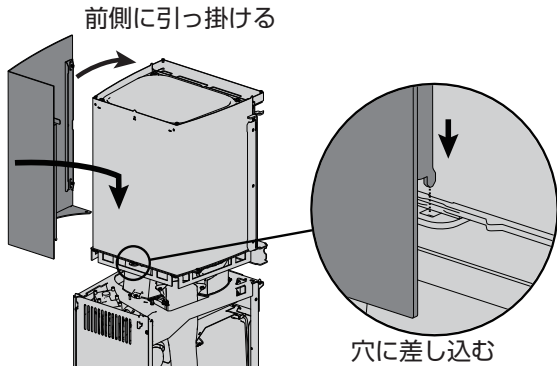
#### お願い

●燃焼室の底面に対して、バーミキュライトリングが浮いている場合は、フレームモデラーが正しく組み付いていない可能性があります。バーミキュライトリングを取り外して、再度、フレームモデラーを正しく組み付けてください。

# 燃焼室の組み立て (つづき)

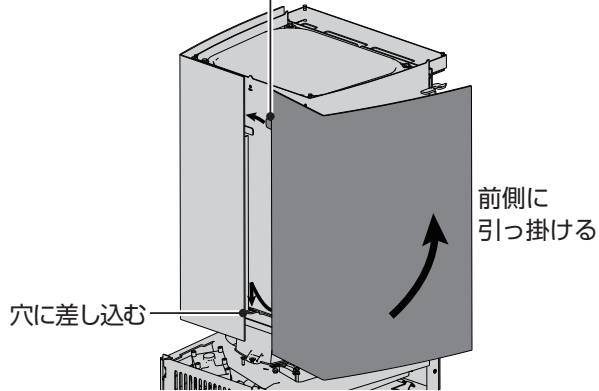
## 4 燃焼室側板 L と R を取り付ける。

① 燃焼室側板 R を取り付けてください。



② 燃焼室側板 L を取り付けてください。

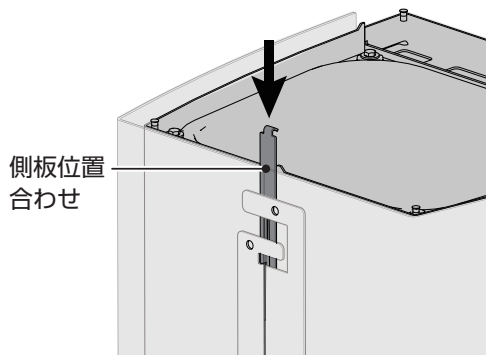
ツメを燃焼室側板 R の内側へ差し込む



## 5 側板位置合わせを差し込む。

● 側板位置合わせが止まるまで差し込んでください。

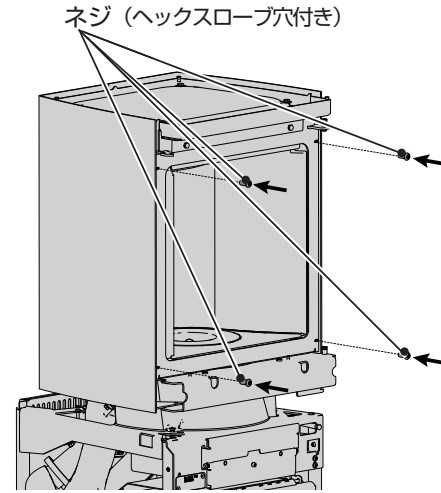
※イラストは、差し込みがわかりやすいように内部を表現しています。



側板位置合わせの溝で、燃焼室側板 L と R を挟み隙間ができないようになっています。

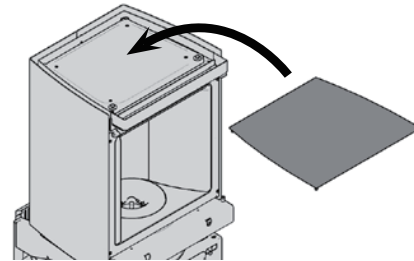
## 6 燃焼室側板 L と R を固定する。

● ネジで燃焼室側板 L と R を固定してください。



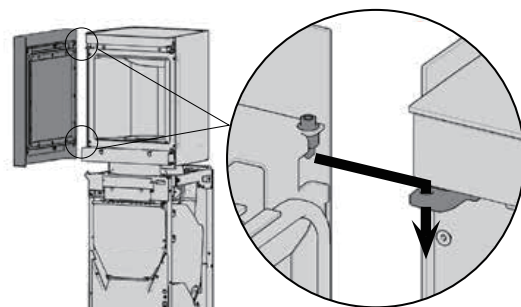
## 7 天板 (附属品) を取り付ける。

● 天板を燃焼室上面にのせてください。

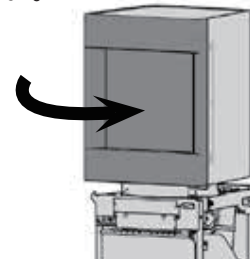


## 8 燃焼室扉を取り付ける。

① 燃焼室扉のピンを上下同時に燃焼室の穴に確実に入れてください。



② 燃焼室扉ハンドルを使って、燃焼室扉を閉じてください。





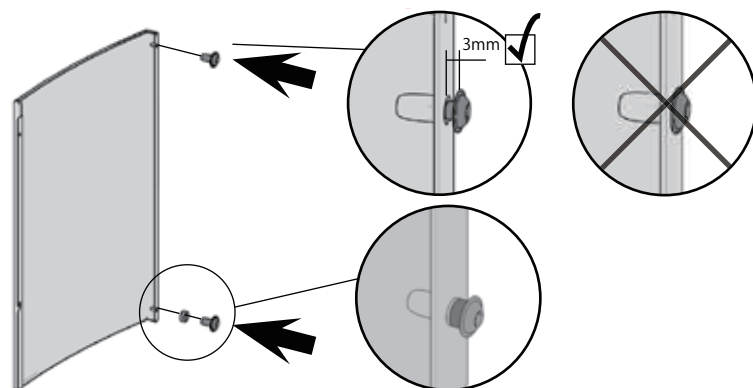
## 9 本体の組み立て

### 本体の組み立て

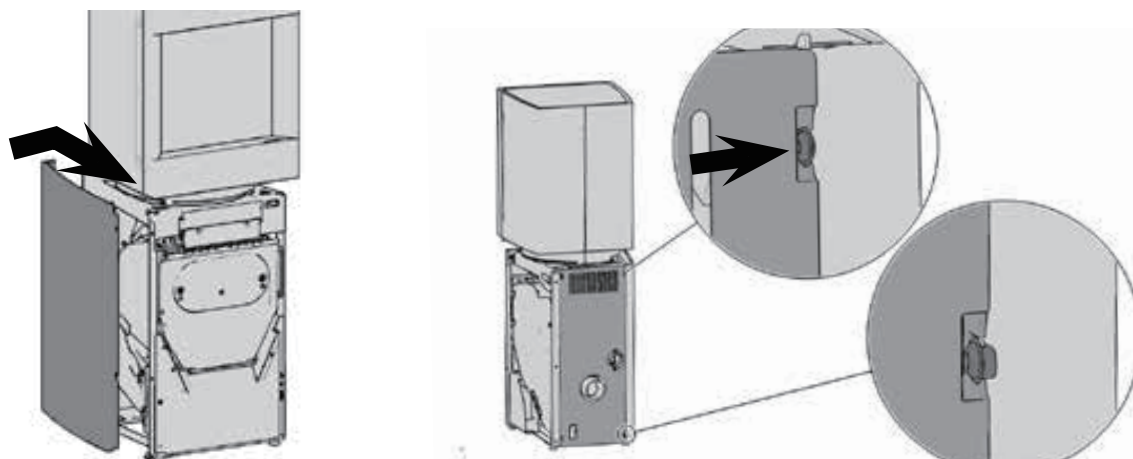
●開こんや据付けをするときに取り外した本体の部品を元の通りに組み立ててください。

#### 1 本体側板を取り付ける。

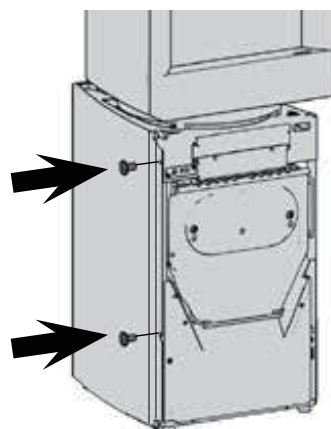
①本体側板 L の後側にあるねじのくび下に、約 3mm のすき間があることを確認してください。



②ねじのくび下のすき間を利用して、本体側板 L を本体に引っ掛けてください。



③本体側板 L の前側をねじ 2 本使って固定してください。



④本体側板 R も同様に①～③の手順で取り付けてください。

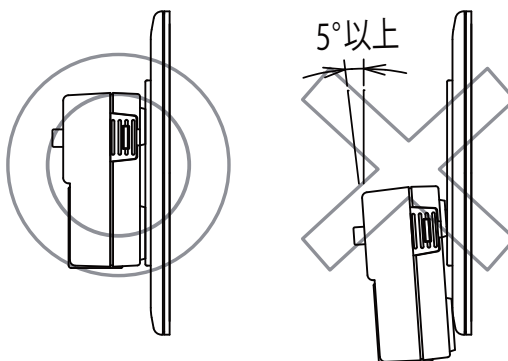
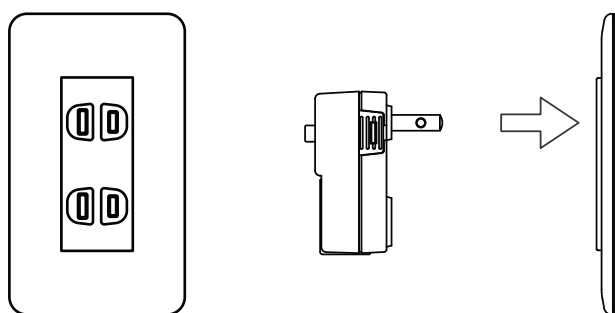
# 10 感震タップ（安全装置）の取り付け

## 感震タップ（安全装置）について

- 感震タップは地震（震度約5以上）などにより、強い振動を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に電気の流れを止め、運転を停止させる安全装置です。
- 必ず感震タップを取り付けて、本機（ストーブ）を使用してください。
- 地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、ストーブ本体や排気・給気管接続部に外れや異常がないことを確認したのち再運転をおこなってください。

## 1 感震タップをコンセントに差し込む。

- 感震タップを壁のコンセントの上側の差し込み口にまっすぐに奥まで差し込んでください。
- 自己診断後（約3～4秒間）、地震感知状態になります。
- AC100Vのコンセントを使用してください。



上側の差込口に差し込む

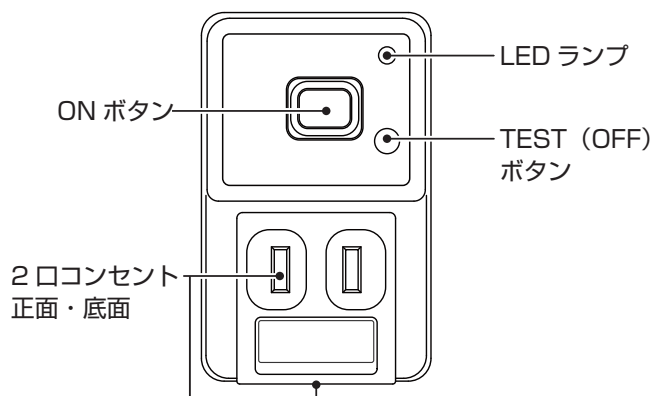
5°以上傾くと正常に動作しない  
おそれがあります

## 2 TEST (OFF) ボタンを押して、通電が停止することを確認する。(作動確認)

※ストーブ運転中におこなわないでください。

- ①TEST (OFF) ボタンを押し、約2～3秒後にLEDランプが点灯するか確認してください。  
(感震による通電停止中はLEDランプが点灯します。)

- ②正常にLEDランプが点灯することが確認できたら、ONボタンを押してください。  
(LEDランプ点灯中（通電停止中）にONボタンを押すと、LEDランプが消灯し、通電を開始します。)



# 11 試運転

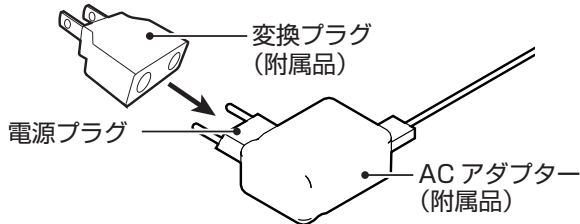
- ストープの据え付けが終わりましたら、販売店・工事店様は必ずご使用者と一緒に試運転をおこなってください。
- 取扱説明書を参照しながら使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先をお教え願います。

## 運転の準備

### ■ リモコンを充電する。

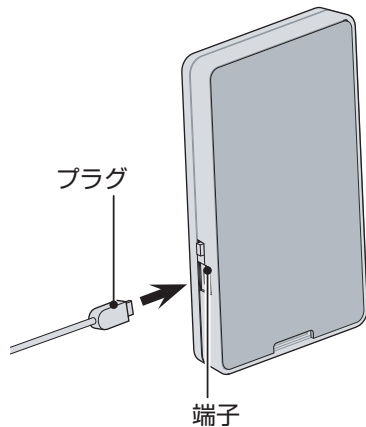
#### 1 変換プラグを差し込む。

- ACアダプターの電源プラグに変換プラグを差し込んでください。



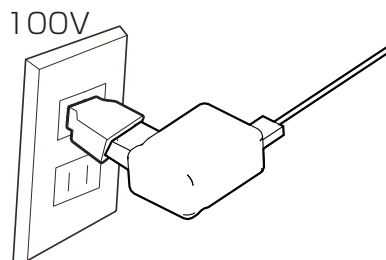
#### 2 リモコンにプラグを差し込む。

- リモコンの端子に ACアダプターのプラグを差し込んでください。



#### 3 コンセントに電源プラグを差し込む。

- リモコンが起動していない状態でコンセントに差し込むと、リモコンが起動して充電を開始します。

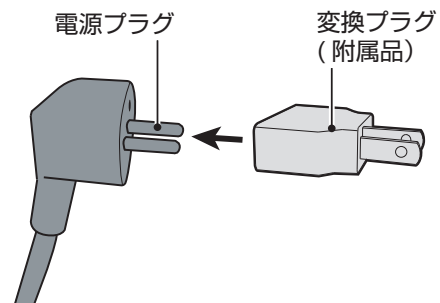


※初めてのご使用時は、リモコンを約1時間充電してください。

### ■ 本体に電源コードを接続する。

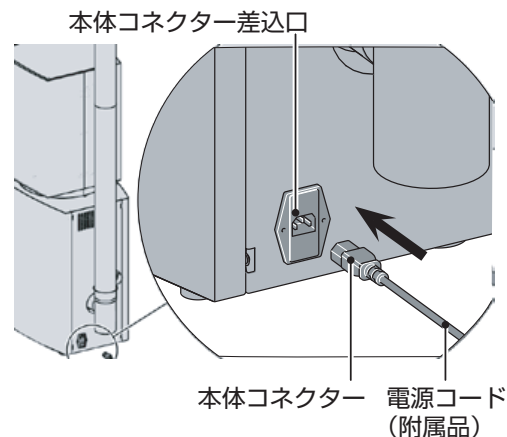
#### 1 変換プラグを差し込む。

- 電源コードの電源プラグに変換プラグを差し込んでください。



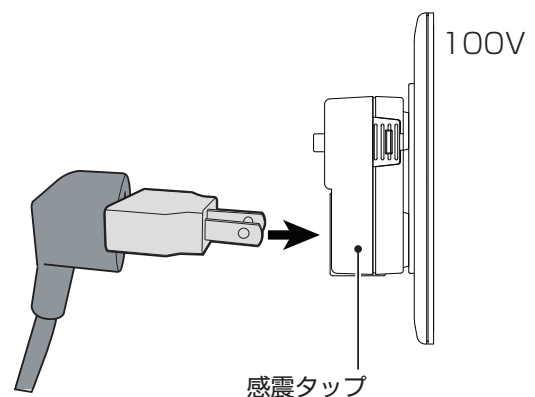
#### 2 機器本体に電源コードを差し込む。

- 本体背面の本体コネクター差込口に電源コードの本体コネクターを差し込んでください。



#### 3 コンセントに取り付けた感震タップに電源プラグを差し込む。

- 電源プラグを差し込んで通電されると、本体から「ピー」と音が出ます。





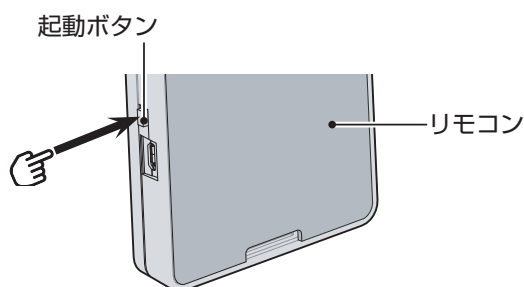
# リモコンのペアリング（初めに必ず行う）

- ペアリングとは本体とリモコンを相互認識させることです。
- ペアリングの設定は、本体にリモコンを近づけておこなってください。
- 機器はあらかじめ電源プラグをコンセントに差し込み通電しておき、通電後 3～5 分してから以下のペアリング操作をおこなってください。

## 1 リモコンの起動ボタンを押す。

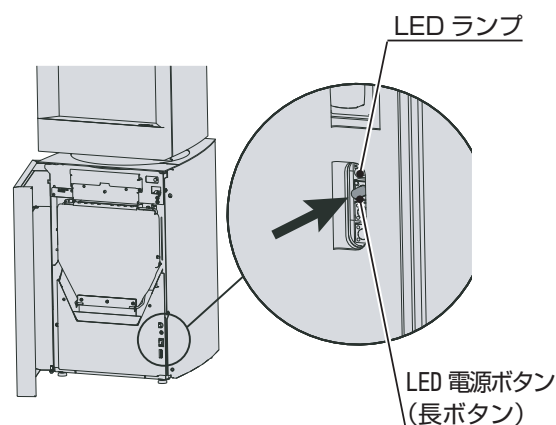
- 細い棒状のものを使ってリモコンの起動ボタンを押してください。  
リモコンが起動しているときは、一旦、リモコンの起動ボタンを押して OFF にした後、再度起動ボタンを押して再起動してください。

※充電中はリモコンを OFF にできません。  
リモコンを OFF にするときは AC アダプターを、一旦外してからおこなってください。





## 2 本体の LED 電源ボタンを長押しする。

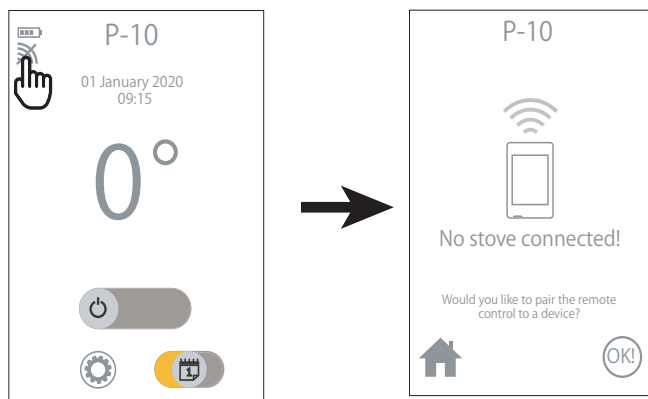
- リモコンを起動してから 1 分以内に本体の LED 電源ボタンを 6 秒以上長押ししてください。  
ペアリングできる状態になると、本体の LED ランプが紫色点滅し始めます。





## 3 リモコンの表示画面にある を押す。

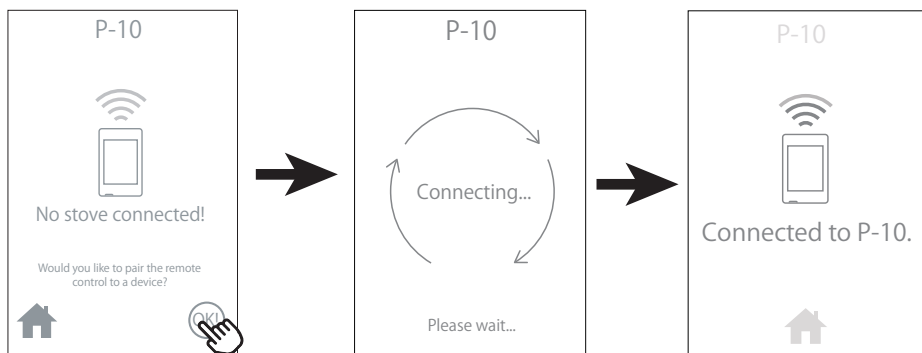
-  をタッチするとペアリングの設定画面が表示されます。

(本体とリモコンの接続がない場合は  が表示されます。)



## 4 をタッチして、ペアリングする。

-  をタッチするとペアリングを開始します。
- ペアリングが完了すると「Connected to P-10.」を表示します。
-  ボタンを押すと通常表示画面（ホーム画面）に移行します。



●ペアリング中です。

●ペアリングが完了しました。

※ペアリングできなかった場合は、再度ペアリング操作をしてください。それでも、ペアリングができない場合は、**お客様相談窓口** へご相談ください。

## 11 試運転

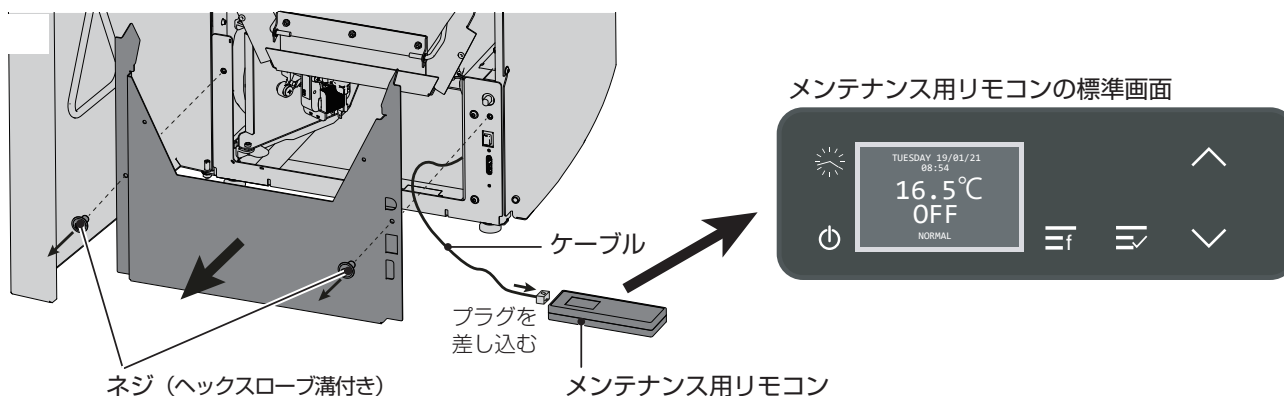
### 排気圧センサーの検出確認（初めに必ず行う）

- 設置や移設したときは、排気圧センサーが正しく排気圧を検出しているか確認してください。
- 排気圧センサーが検出した数値は、メンテナンス用リモコンを使って確認します。  
排気圧センサーの検出確認に使用するメンテナンス用リモコン（貸し出し用）を機器と一緒に送付しています。次の手順に従って排気圧センサーの検出確認及び校正をおこなったのち、使用後はメンテナンス用リモコンに同封の送り状を使って速やかに弊社まで返却してください。

#### ■検出確認の準備

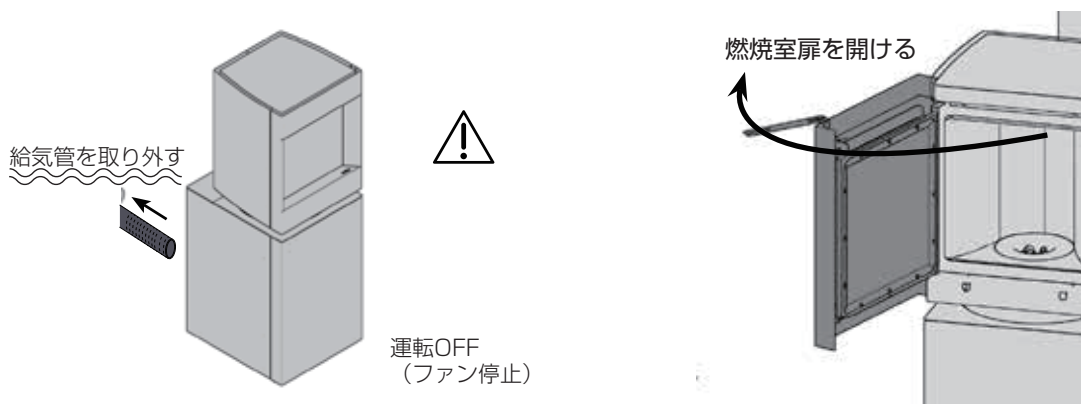
##### 1 メンテナンス用リモコンを有線でつなぐ。

- ①本体扉を開き、ネジ（2箇所）を取り外し、アンダーパネルを取り外してください。
- ②本体の中からケーブルを取り出し、プラグをメンテナンス用リモコンへ差し込んでください。  
（ケーブルから電源の供給と通信をおこないます。）  
接続するとメンテナンス用リモコンの標準画面が表示されます。



##### 2 本体の準備をする。

- ①運転 OFF（ファン停止）状態にします。（排気ファンを停めて校正をします。）
- ②給気管を本体背面から取り外し、燃焼室扉を開けてください。



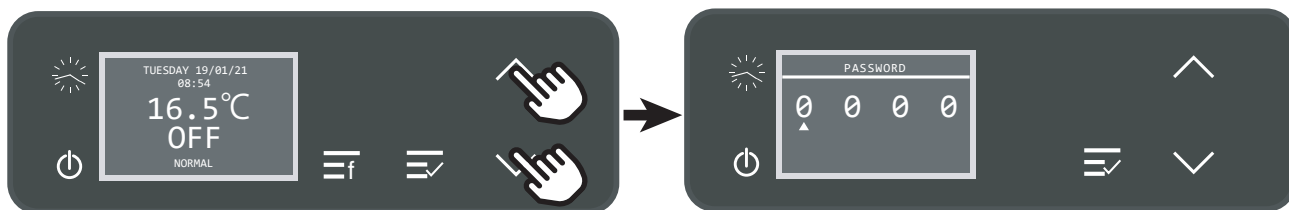
※ストーブが動作していない状態でストーブ・排気管を通り室内と屋外を行き来する空気の流れ（圧力）排気圧を検出するために、本体の準備をします。

## 排気圧センサーの検出確認 (初めに必ず行う)(つづき)

### ■メンテナンス用リモコンで検出確認をする

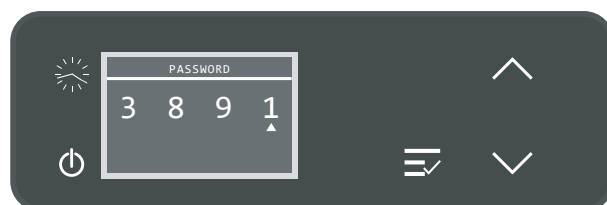
#### 1 「**∧**」「**∨**」の位置を同時にタッチする。

- 同時にタッチすると「0 0 0 0」が表示されます。



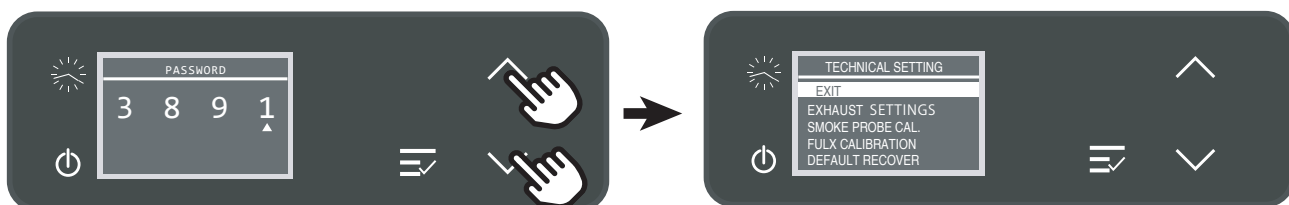
#### 2 パスワード「3891」を入力する。

- 「**∧**」「**∨**」で数字を合わせてください。  
「**▲**」の桁の数字が増減します。
- 「**≡**」をタッチして桁を右へ送ってください。



#### 3 「3891」表示中に、「**∧**」「**∨**」を同時にタッチする。

- 同時にタッチするとメニュー画面が表示されます。

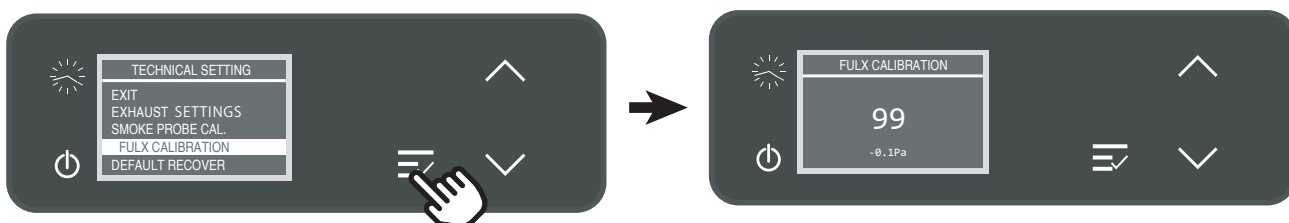


※パスワードが間違っていたり、うまく受付できなかった場合には、標準画面に戻ります。  
その際はもう一度、操作をやり直してください。

※「**∧**」「**∨**」をうまく同時にタッチできないと数字がずれてパスワード違いと判断する場合があります。

#### 4 「**∧**」「**∨**」で「FLUX CALIBRATION」を選び「**≡**」をタッチする。

- タッチすると「FLUX CALIBRATION」排気圧センサーの数値が表示されます。



## 11 試運転

### 排気圧センサーの検出確認 (つづき)

#### ■メンテナンス用リモコンで検出確認をする (つづき)

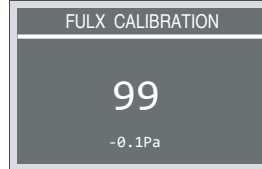
#### 5 排気圧センサーの数値を確認する。

##### 「100」「0.0Pa」を表示した場合



- 正しく検出されています。  
校正の必要はありません。

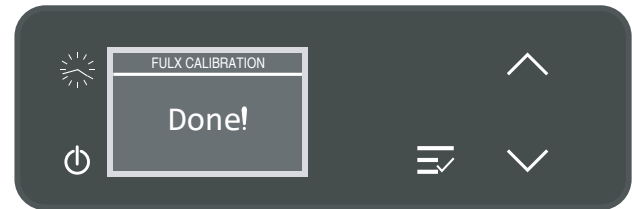
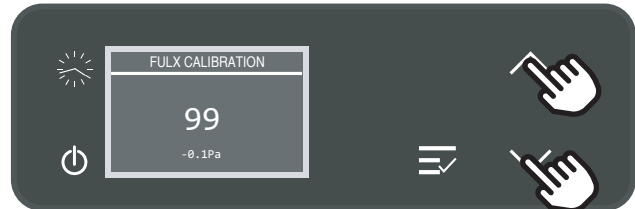
##### 「100」「0.0Pa」以外を表示した場合



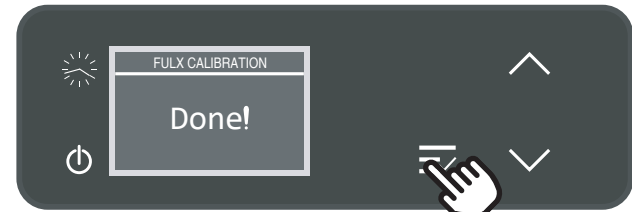
- 校正が必要です。  
下記の手順で校正をしてください。

#### 〈排気圧センサーの校正手順〉

- 「FLUX CALIBRATION」表示中に「^」「v」を同時にタッチしてください。校正が始まります。校正が正常に完了すると「Done!」を表示します。

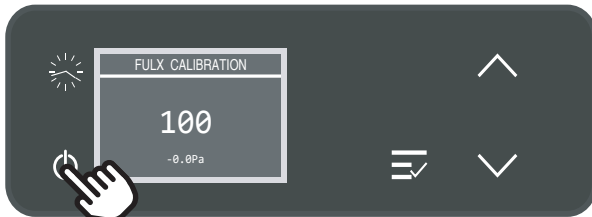


- 「≡」タッチして、排気センサーの数値を確認してください。



#### 標準画面に戻す場合

- 排気圧センサーの数値を表示しているときに「⏻」をタッチすると標準画面に戻ります。



標準画面

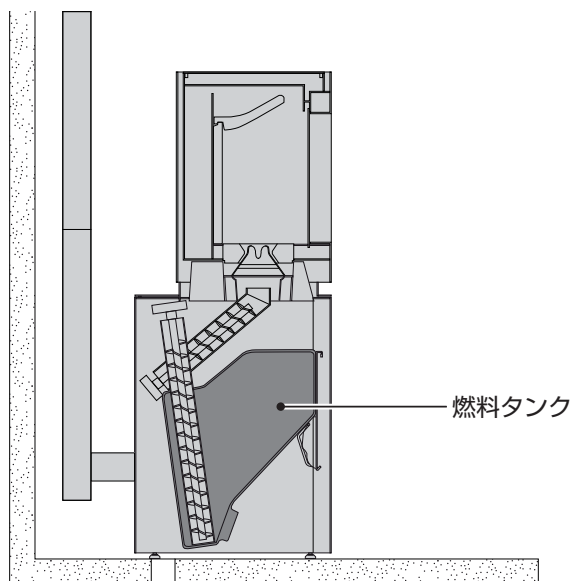
#### ■検出確認完了後

- ①メンテナンス用リモコンを取り外し、ケーブルを本体の中へ収納してください。
- ②アンダーパネルを取り付け、本体扉を閉めてください。
- ③燃焼室扉を閉め、給気管を本体背面に取り付けてください。

#### お願い

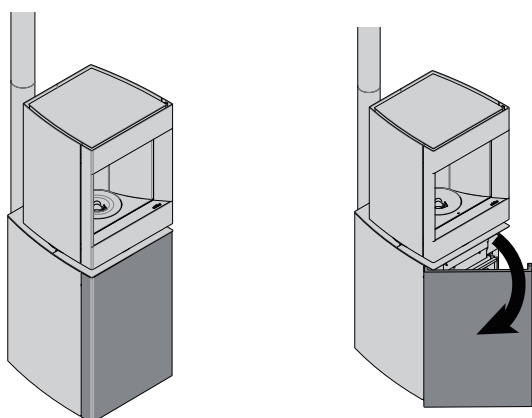
- 機器と一緒に送付したメンテナンス用リモコンは貸し出し品です。  
使用後はメンテナンス用リモコン同封の送り状を使って速やかに弊社まで返却してください。

# ペレット燃料を入れる



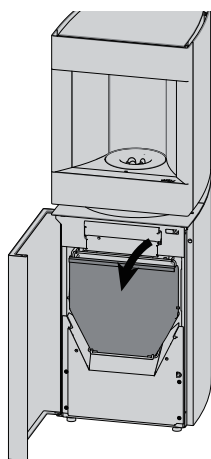
## 1 本体の扉を開ける。

- 本体の扉を手前に引いて、扉を開けます。



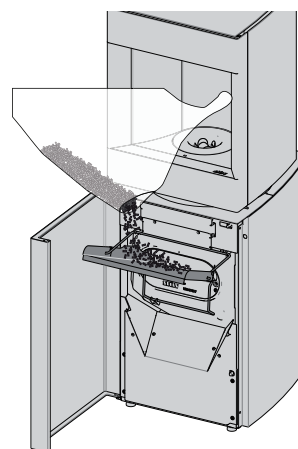
## 2 燃料タンクの扉を開ける。

- 燃料タンク扉上部を手前に引き開けてください。



## 3 燃料を投入する。

- 燃料タンクに燃料を投入した後、付属のペレットならし棒を使用して、タンク内の燃料が均一になるように、ならしてください。



### お願い

- 燃料を投入する前に、燃料タンク内に異物がないことを確認してください。
- 湿ったペレットを燃やさないでください。
- 木くずやペレットの粉を入れないでください。

## 4 燃料タンクの扉を閉めて、本体の扉を閉める。

## 11 試運転

### 灰落とし装置の動作確認

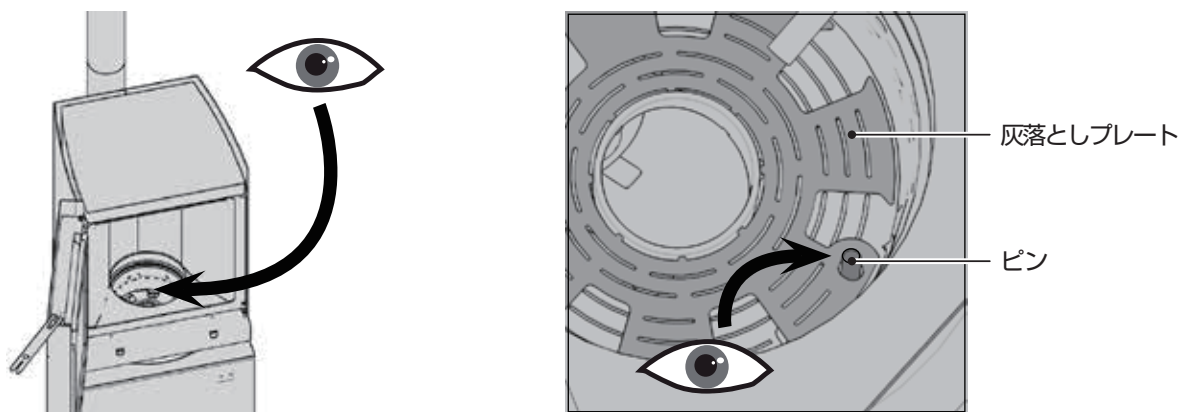
試運転のときに必ず灰落とし装置の動作確認をしてください。  
(点火をするとき灰落としができずに、灰が残っていると異常燃焼するおそれがあります。)

#### 1 バーミキュライトリングとフレームモデラーを取り出す。

- 燃焼室扉を開けてバーミキュライトリングとフレームモデラーを取り出してください。

#### 2 灰落とし装置が正しくセットされていることを確認する。

- 灰落としプレートの穴にピンが入っていることを確認してください。

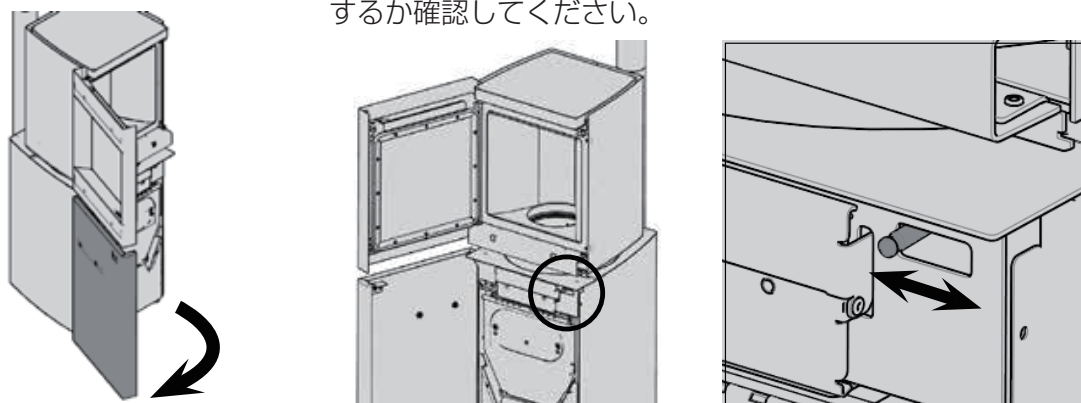


#### お知らせ

- 工場から出荷する前にテストをしているため、オーガスクリューの中にペレットが残っていることがあります。

#### 3 灰落とし装置の動作確認をする。

- ① 本体扉を開いてください。
- ② シェーカーレバーを左右に動かし、灰落としプレートが動作するか確認してください。



※ 灰落としプレートが動かない場合は、ペレットが挟まっていないか確認してください。  
異物がない場合は **お客様相談窓口** へご連絡ください。

#### 4 バーミキュライトリングとフレームモデラーを元の通りに取り付けてください。

- バーミキュライトリングとフレームモデラーを取り付けて、燃焼室扉を閉めてください。



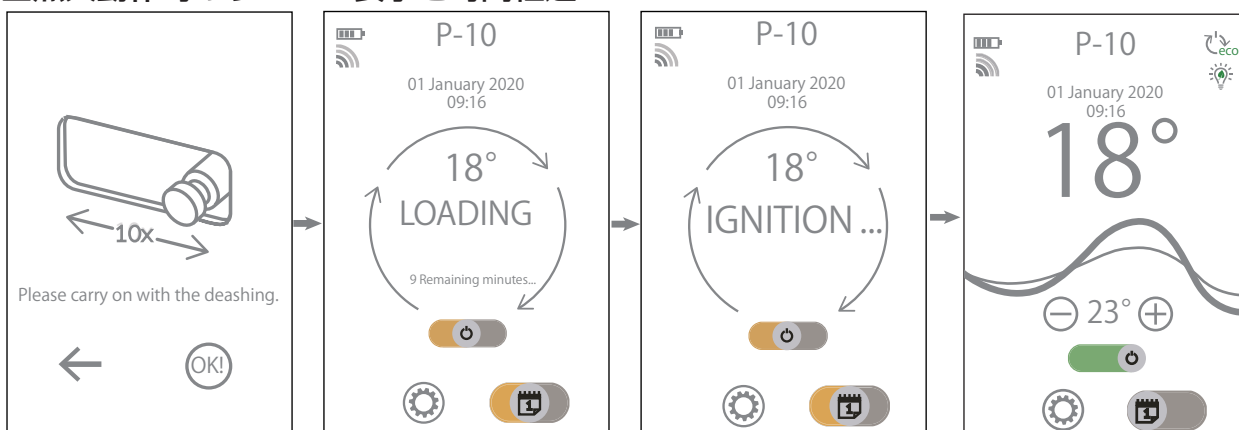
# 点火して試運転をする


## 1 リモコンの運転入 / 切ボタン をタッチする。

- 点火動作時のリモコン表示に切り替わります。
- 点火動作と初期運転が完了して本燃焼になりましたら、数分間運転してください。  
エラー表示・警報音がでないこと、良好な炎になっていることなどを確認してください。
- 詳しい操作方法やエラー表示は「取扱説明書」をご覧ください。



### ■点火動作時のリモコン表示と時間経過



灰落としと作業の実施。  
シェーカーレバーを 10 回以上動かす。実施したら、 をタッチしてください。

センサーとオーガーマーターのチェック及びペレットの充填。(約 9 分間)

点火と初期運転。  
(スタートから約 30 分間)

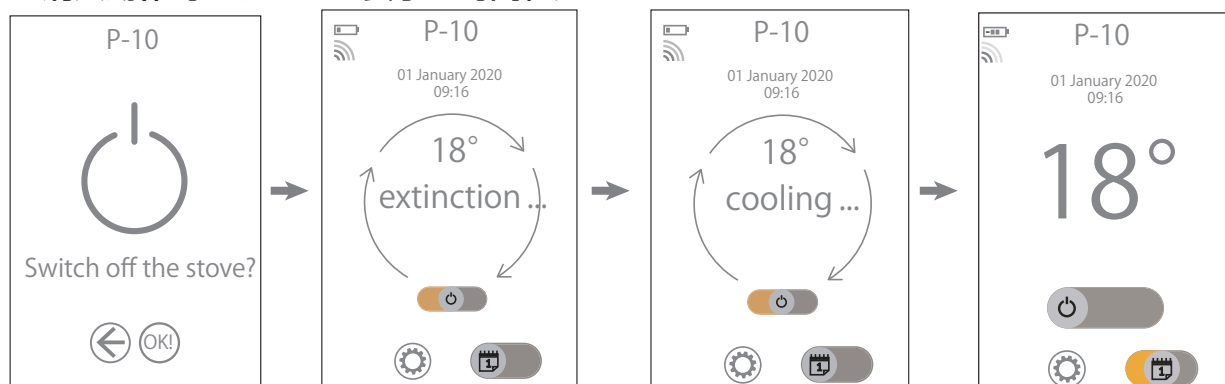
本燃焼。



## 2 試運転が終わったら リモコンの運転入 / 切ボタン をタッチして 消火する。

- 消火動作時のリモコン表示に切り替わります。
- オーガスクリュー 2 のみ駆動してしばらく運転して、運転停止操作後本体が冷めるまで消火動作を継続します。  
消火が完了するまでには長い時間がかかります。(約 1 時間)



### ■消火動作時のリモコン表示と時間経過



消火動作の開始。  
 ボタンをタッチすると消火動作を開始します。  
 ボタンをタッチすると元の運転状態に戻ります。

消火動作中。  
(約 15 分間)

本体の冷却中。  
(冷えるまで)

消火完了。

## 11 試運転

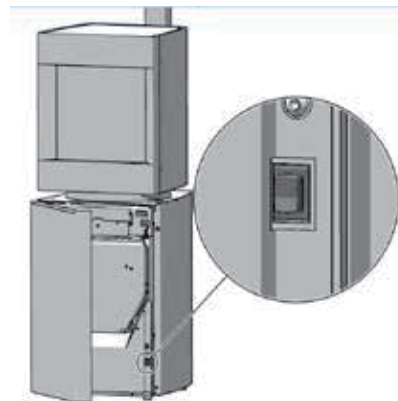
### 緊急消火のしかた

におい、ススの発生、炎の色に異常を感じたときは、緊急消火ボタンを使って消火してください。  
リモコンが使用できないときや紛失したときにも、緊急消火ボタンを使って消火してください。

#### 1 本体扉を開く。

- 緊急消火ボタンは、本体扉を開くと、右下の位置にあります。

#### 2 緊急消火ボタンを3秒以上長押しする。



## 12 廃棄するときの注意

- ストーブを廃棄するときは、燃料タンクの燃料を抜いてください。  
必ずお買い求めの販売店または、**お客様相談窓口** へご依頼ください。

輸入元 **株式会社 トヨトミ**

〒467-0855 名古屋市瑞穂区桃園町5番17号

**お客様相談窓口**

 **0120-938-178**

受付時間 平日(月曜～金曜)午前9時～午後5時  
※土・日・祝日は除く

FAX 052-857-1220